

ニ於テハ嚴寬ノ譴責再度ニ於テハ一箇月在職時開  
ノ減殺三度ニ於テハ退職ニ處セラル

第千九十四條 若シ通船區長ハ「ボロウ井ツ」ノ瀑水ヲ  
通行ス可キ小舟ヲ檢視スルニ方リ其小舟ヲ不適用  
ナリト認知スト雖モ證據人カ再度ノ檢視ヲナシテ  
其初度ノ檢視ニ反對ナルヲ見出スキハ其通船區長  
ハ之カ爲メニ初メ小舟ヲ檢視スル時ニ在リシ通船  
局員ト共ニ三十ル卜ブル以下ノ贖金ニ處セラル

第千九十五條 通船區長ハ不注意ニ由リ粗惡ノ輕舟  
ヲ鑿渠ニ入ラシメテ若シ之ヲ沈沒セシムルキハ初

度ニ於テハ七ル卜ブル五十コペーク以下ノ贖金再  
度ニ於テハ退職ニ處セラル  
若シ又通船區長ハ職業人ヲ壓責スル爲メニ良好ノ  
輕舟ヲ鑿渠ニ入ラシメサルキハ免職ニ處セラル  
第千九十六條 捺印及ヒ検査等ヲ爲スニ假托シテ路  
中ニ船舶或ハ筏棧ヲ法ニ背テ抑留スルノ通船區長  
ハ退職ニ處セラル  
而シテ斯ノ如キ抑留ニ由テ船主ニ蒙ラシメタル損  
失ヲ之ニ返償セサル可ラス  
第千九十七條 此款ニ掲載シタルモノ、外ニ總テ職



務上ノ缺謬或ハ擅用アル通船區長ハ職務上ノ犯罪  
及ヒ違罪ニ就キ此刑法第五編ニ確定シタル罰ニ處  
セラル

第一千二百十三條 商法(第八百五十三條)ニ定メタル證書ナク

或ハ船長トノ契約書ヲ賣買世話人ノ簿冊ニ載テ以  
テ定規ノ如ク決定スルコトナク己レカ船ヲ管理セシ  
メンカ爲メニ其船長ヲ採用スル船主ハ二百「ル」トブ  
ル以下ノ贖金ニ處セラレ之ニ加フルニ船長ノ不正  
不直ナル歟或ハ學術ノ不足ナルヲ以テ賣買世話人  
ニ損失ヲ蒙ラシメタルノ場合ニ於テ船主ハ其長船

ノ拂ヒ得サル總テノ損失ヲ返償セサル可ラス

第一千二百十四條 船名ヲ擅ニ變換シ或ハ其船名ヲ變

換スルニ關シテ法律ニ定メタル規則ヲ遵守セサル

船主ハ一度毎ニ三百「ル」ト「ブ」以下ノ贖金ニ處セラ

ル(第一千二百五十五條)

第一千二百十五條 船舶ノ販賣或ハ修繕ノ事ヲ其船舶

ニ關スル港口ノ稅關ニ告知スルニ方テ法律上ノ定

規ヲ遵守セサリシ船主ハ二百「ル」ト「ブ」以下ノ贖金

ニ處セラル(第一千二百五十五條)

第一千二百十六條 魯國臣民ハ外國ノ港口ニ於テ魯國



領事ニ告知スルヲナク及ヒ最近ノ魯國領事ニ船舶  
證書ヲ呈出スルヲナク已レノ船舶ヲ賣却スルハ  
三百ルーブル以下ノ贖金ニ處セララル

(注目)第千二百十四條ヨリ第千二百十六條ニ至ルノ  
各條ニ掲載サレタル場合ニ於テハ其各條ニ確定シ  
タル贖金ヲ拂ヒシ後又ハ船長或ハ船主ヨリ質物或  
ハ頼ムニ足ル可キ保證ヲ出セシ後ニ於テノミ其船  
舶ノ航海ヲ允ス可シ

第千二百十七條 魯國ノ旗ヲ以テ航海スルノ免許狀  
ヲ得ンカ爲メニ贋偽ノ證書ヲ呈出スル者又ハ贋偽

ノ免許狀アル魯國ノ旗ヲ以テ航海スル者ハ此刑法  
第二百九十四條第九百七十五條第九百七十七條第  
千四百十二條及ヒ第千六百九十條ニ確定シタル罰  
ニ處セララル

第千二百十八條 若シ魯國臣民ハ利欲或ハ其他ノ目  
的ヨリ外國人ニ已レノ名ヲ假シテ船舶ヲ購求セシ  
メ而シテ已レ其船舶ヲ得ルニ實地ノ加與ナキハ  
二箇月ヨリ少カラズ一年四箇月ヨリ多カラサル時  
間ノ禁獄ニ處セララル

而シテ魯國ニ居留シテ斯ノ如キ約定ヲ爲シタル外



國人ハ四日ヨリ少カラス三箇月ヨリ多カラサル時  
間ノ拘留ニ處セララル

第一千二百十九條 魯國ノ旗ヲ以テ航海スルノ免許狀  
ヲ得ルト雖モ彼ノ商法第八百五條ニ定メタル記印  
即チ船舶ノ魯國臣民ノ所有ニ移リタルノ記印ナキ  
外國ノ船舶證書ヲ已レノ船舶ニ保存スル者ハ五百  
「ル」ブル以下ノ贖金ニ處セララル

第一千二百二十條 領事ヨリ已レニ渡ス所ノ證書ニ就  
テ確定シタル税金ヲ納メサル商人ハ其稅額ニ倍以  
下ノ贖金ニ處セララル

第一千二百二十一條 已レニ委任サレタル船舶又ハ已  
レノ責任ニ在ル所ノ商品ヲ故ラニ損害スル船長ハ  
之カ爲メニ其蒙ラシメタル損失ヲ返償スルノ外他  
ノ者ノ財産ヲ滅盡及ヒ損害スルニ就キ確定シタル  
贖金及ヒ刑罰ノ最重ナルモノニ處セララル

第一千二百二十二條 已レニ委任サレタル船舶ヲ故ラ  
ニ焚燒シ又ハ火藥或ハ瓦斯ヲ以テ故ラニ船舶ヲ空  
氣ノ上ニ飛騰セシメ或ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ之ヲ  
破壊セシムル船長ハ之カ爲メニ其蒙ラシメタル損  
失ヲ返償スルノ外斯ノ如キ犯罪ニ就キ此刑法第千



六百七條第千六百九條第千六百十六條第千六百十七條及第千六百十九條ニ確定シタル罰ノ最重ナルモノニ處セララル

第千二百二十三條 己レニ委任サレタル船舶ト共ニ惡謀ヲ以テ遁去シ又ハ故意ヲ以テ其船舶ヲ賣却或ハ私有スル船長ハ之カ爲メニ其蒙ラシメタル損失ヲ返償スルノ外族權全部ノ剝奪及ヒ西比利遠地ノ謫所放流ニ處セララル

第千二百二十四條 他出ス可キ重大ノ事故ナク又ハ他出セサル可ラサルニ方リ其不在ノ時ニ緊要ナル

處分ヲ爲サスシテ測量士官ニ委任シ以テ船舶ヨリ他出スル船長ハ百ル以下ノ贖金或ハ四箇月ヨリ少カラス八箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セララル

第千二百二十五條 若シ船長ハ己レノ船舶ヲ危殆ニ付スルキハ之カ爲メニ事ノ情實ニ依リ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第五等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入又ハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ放流ニ處セララル



第一千二百二十六條 若シ船ニ在ル人ハ已レテ救フ爲  
 又ニ其船ヲ去ルノ危殆ナル場合ニ於テ其船長ハ他  
 ノ諸人カ船ヲ去ルノ前ニ船ヲ下ルキハ之カ爲メニ  
 事ノ情實ニ依リ此刑法第五十條ニ依テ特權幾分ノ  
 剝奪ヲ以テ八箇月ヨリ少カラズ一年四箇月ヨリ多  
 カラサル時間懲治舍内ノ禁錮又ハ四箇月ヨリ少カ  
 ラズ八箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セラレ  
 第一千二百二十七條 若シ危殆ナル場合ニ於テ船長ハ  
 緊要ノ時ニ乗組船舶及ヒ荷物ヲ救援スルノ諸方策  
 ナ取用セサルヨリシテ災難ヲ生セシムルキハ免職

ニ處セラレ

而シテ之ニ加フルニ罪科ノ等級及ヒ事ノ情實ニ依  
 リ此刑法第五十條ニ原キテ特權幾分ノ剝奪及ヒ八  
 箇月ヨリ少カラズ一年四箇月ヨリ多カラサル時間  
 懲治舍内ノ禁錮或ハ只四箇月ヨリ少カラズ八箇月  
 ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニシテ處セラレ（第一千二百  
 八條）

第一千二百二十八條 若シ商船ノ傍ニ警衛ノ軍艦アル  
 キニ其船長ハ長官ノ允許ナク警衛ヲ遠ケ或ハ其他  
 斯ノ如キ場合ノ爲メニ定メタル規則ヲ犯スキハ海



軍法ニ確定シタル規則ニ依テ罰セララル  
 第一千二百二十九條 若シ危殆ニ在ル船舶ヲ互ニ保禦  
 ス可キ契約書ニ署名シタル船長ハ其契約書ニ反シ  
 テ未タ航行ヲ遂ケサル前ニ故意ヲ以テ保護ヲ怠ル  
 キハ保護ヲ受ク可キ他ノ者カ保護ノ時ニ蒙リタル  
 損失ノ二倍ヲ拂ハサル可ラス  
 若シ又敵ノ襲撃ノ時ニ斯ノ如キ所爲ヲ以テ船舶ヲ  
 道去スルキハ其船長海軍法ニ確定シタル罰ニ處セ  
 ラル

第一千二百三十條 船舶ニ糧食ノ全ク不足ナル時ニ餓

死ノ危殆ヲ免レシカ爲メ已レト逢會シタル他ノ船  
 長ヨリ己レカ乗組ノ糧食ニ緊要ナル分量ヲ強取ス  
 ルノ船長ハ左ノ罰ニ處セララル但シ其船舶ハ港口ヨ  
 リ發航ノ時ニ糧食ヲ不足ニ貯備シタルト且途上ニ  
 於テ先見シ難キ特別ノ變事ニ逢ハサリントテ證セ  
 ラル、キニハ然リトス而シテ其船長ハ斯ノ如キ不  
 戒慎ニ就キ他ノ船舶ニ蒙ラシメタル損害ヲ返償ス  
 ルノ外四箇月ヨリ少カラズ八箇月ヨリ多カラサル  
 時間ノ禁獄ニ處セララル  
 若シ又斯ノ如キ場合ニ於テ其船長ハ已レト逢會シ



タル他ノ船長ヨリ緊要ナル分量ヨリ多分ニ糧食ヲ取りテ以テ他ノ船長ノ船ニ緊要ナル糧食ヲ失ハシムルハ海上ノ兵盜ニ就キ此刑法第千六百三十條ニ確定シタル罰ニ處セラル

第千二百三十一條 若シ船長ハ緊要ニ證書ナキ役夫

航夫或ハ其他ノ賤夫ヲ己レノ船ニ採用シ又ハ斯ノ如キ證書ニ確定シタル期限ヨリ永ク之ヲ採用スルハ一日毎ニ付キ三十「ロト」以下ノ贖金ニ處セラル但シ其贖金ヲ通計シテ二十「ロト」ヨリ多カラサル場合ニ於テハ然リトス

而シテ之ニ加フルニ斯ノ如キ者カ船舶或ハ商品ニ蒙ラシムル所ノ損害アルニ就キ其船長ハ之カ責任ス可シ

又知テ犯人ヲ己レノ船ニ採用スルノ場合ニ於テハ

此刑法第三百十七條ニ確定シタル罰ニ處セラル

第千二百三十二條 他ノ船長ノ役夫或ハ航夫ニシテ

其船長ヨリノ證書或ハ放解ナキモノナルヲ知テ之ヲ己レノ船ニ採用スル船長ハ一日毎ニ付キ十五「ロト」以下ノ贖金ニ處セラル但シ其贖金ヲ通計シテ二十「ロト」ヨリ多カラサル場合ニ於テハ然リト



ス而シテ又其役夫或ハ航夫ノ舊主人ニ蒙ラシメタル損失ヲ返償ス可シ

第一千二百三十三條 千八百六十八年間ニ廢止ス

第一千二百三十四條 役夫及ヒ航夫ヲ傭入ル、ノ契約

書即チ定規ニ循テ作爲シタル契約書ヲ己レニ有セ

スシテ發航スル船長又ハ沿岸航海ノ時ニ方リ彼ノ

商法（自第九百三十九條至第九百四十二條）ニ符合スル傭入ノ計算簿ナ

ク發航スル船長ハ六「ル」以下ノ贖金ニ處セラ

ル

其贖金ノ一半ハ地方公救場ニ入り（第六十七條ノ注目ヲ見ル可シ）

而シテ他ノ一半ハ上告人ノ利益ニ供ス可シ

第一千二百三十五條 商法（第八百五十三條）ニ定メタル證書ナ

ク及ヒ定規ノ如ク測量士官トノ契約書ヲ賣買世話

人ノ處ニ顯ハシテ以テ決定スルコトナク其測量士官

ヲ己レカ管理スル船ニ採用スル船長ハ五十「ル」トゾ

ル以下ノ贖金ニ處セラ

第一千二百三十六條 船中ニ於テ犯罪ヲ爲シタル者ノ

逃亡ヲ豫防スル爲メニ緊要ノ方策ヲ故ラニ取用セ

サル船長ハ隱匿ニ就キ此刑法第二百二十四條ニ定メ

タル規則ニ依テ罰ニ處セラ（第一千二百五十四條）



第一千二百三十七條 若シ船長ハ糧食ヲ十分ニ貯備セ  
 ス又ハ船舶ノ役夫及ヒ航夫ニ渡ス可キ割前ヲ擅ニ  
 減少シ又ハ實ニ已ムヲ得サルコトナキニ其割前ヲ全  
 ク渡サス又ハ健康ノ爲メニ不良及ヒ有害ナル糧食  
 ヲ渡スノ罪人ト證セラル、ハ之カ爲メニ被辱人  
 ナ満足セシムルノ外五百ルトズル以下ノ贖金ニ處  
 セラル

第一千二百三十八條 已ムヲ得サルコトナクシテ船舶ノ  
 荷物或ハ其荷物ノ一部又ハ船舶ニ在ル所ノ糧食或  
 ハ其他ノ物品ヲ海中ニ投棄シ又ハ暴風雨及ヒ之ニ

類スル情實ニ要セラレタル時ヲ除クノ外緊要ノ水  
 路ニ由ラスシテ航行シ又ハ惡意ヲ以テ己レニ委任  
 サレタル船舶ヲ沈没セシムル船長ハ之カ爲メニ其  
 蒙ラシメタル總テノ損失ヲ返償スルノ外五百ルト  
 ブル以下ノ贖金ニ處セラル  
 然レモ若シ其船長ハ保險會社ヲ欺瞞シ或ハ其他ノ  
 詐僞ヲ爲シ又ハ人ノ詐僞ヲ助ケ或ハ其詐僞ヲ隱蔽  
 ナ助クルノ故意ヲ以テ斯ノ如キ事ヲ爲スハ詐僞  
 ニ就キ此刑法第千六百九十條ニ確定シタル罰ニ處  
 セラル



第一千二百三十九條 船損或ハ荷損ヲ偽告スルノ船長

ハ彼ノ詐偽ニ就キ此刑法第千六百九十條ニ確定シタル罰ニ處セララル可シ

第一千二百四十條 魯國臣民ニシテ船舶ノ役夫タル者

ヲ重大ノ事故ナク及ヒ其役夫ノ承諾ナク並ニ魯國ノ領事在留公使全權公使ノ允許書ナク外國ニ於テ其船舶ノ役務ヨリ退カシムル船長ハ其退ケラレタル役夫ノ之カ爲メニ蒙リタル損失ヲ返償シ及ヒ自費ヲ以テ其役夫ヲ魯國ニ還送セサル可ラサルノ外其退ケラレタル役夫ヲ本國ニ還送スルニ緊要ナル

金額二倍以下ノ贖金ニ處セララル

外國ノ港口ニ於テ船舶ヲ賣却スルノ場合ニ於テ魯

國ヨリ取用セタル船舶ノ役夫ニ十分ノ給料ヲ與ヘ

船主ノ入費ヲ以テ之ヲ其本國ニ送致セサル船長又

ハ魯國ノ領事或ハ公使ノ臨署ニ於テ其役夫カ他ノ

船長ノ方ニ移ルヲ約束シ及ヒ已レト共ニ魯國ノ港

口ニ歸ルヲ約束シタリシ事ヲ證告セサル船長ハ同

上ノ罰ニ處セララル可シ

第一千二百四十一條 若シ船長ハ已レカ船舶ニ在ル人

ヲ欺キ或ハ強テ其人ノ下船ス可ラサル場所ニ下船



セシムルキハ其下船人ヲ其本國或ハ其到ル可キ場  
 所ニ送致スルニ使用シタル金額ニ倍以下ノ贖金ニ  
 處セラレ且其下船人ノ蒙リタル損失ヲ之ニ返償ス  
 ルノ外四箇月ヨリ少カラス八箇月ヨリ多カラス  
 時間ノ禁獄ニ處セラル  
 又ハ特別ノ情實アリテ斯ノ如キ罪科ヲ増加ス可キ  
 場合ニ於テハ嚮導者カ法ニ背テ人ヲ遺棄スルニ就  
 キ此刑法第千五百十七條ニ定メタル罰ノ重キモノ  
 ニ處セラル

第千二百四十二條

船長ハ緊要ノ時ニ船ヨリ水ヲ注

出ス可キニ注意セス又ハ淺瀬ノ船路ヲ通過スルニ  
 方リ重大ノ事故ヲク嚮導者或ハ案針役ヲ採用セス  
 又ハ之ヲ採用シテ其指示及ヒ處分ニ從ハス又ハ船  
 船ノ碇泊場ニ在リ或ハ碇泊或ハ綱繫スルニ方リ一  
 時ニ役夫ノ半數以上ヲ都會港口或ハ繫場ニ於テ休  
 暇セシメ又ハ船舶ニ適當ノ番卒ヲ設ルニ注意セス  
 及ヒ部下ノ船舶役夫ヲシテ其義務ヲ盡サシメ又ハ  
 火災ノ危殆ヲ避ケシムルニ注意セス並ニ凡テ己レ  
 ノ義務ニ注意セス或ハ己レノ義務ヲ盡ササルニ於  
 テ證徴セラル、并ハ左ノ罰ニ處セラル但シ斯ノ如



キ缺謬ヨリシテ或ル災難ヲ生ゼシムルキハ然リト  
 ス而シテ即チ其船長ハ初度ニ於テハ嚴譴或ハ五十  
 「ル」ブル以下ノ贖金再度ニ於テハ二年或ハ三年間  
 航海スルヲ禁止セラレ  
 而シテ斯ノ如キ缺謬或ハ不注意ヨリ生シタル損害  
 ナ返償セサル可ラス  
 第千二百四十三條 八「フ」ト以上船舶ノ水脚アルニ  
 方リテ案針役ナク通航標ニ由テ聖彼得堡ニ航行ス  
 ル商船長ハ若シ警衛艦及ヒ燈明船ノ豫戒アルニ拘  
 ハラスシテ淺瀬ノ船路ニ止マルルハ一船毎ニ付キ

二十五「ル」ブル以下ノ贖金ニ處セラレ但シ其贖金  
 ハ案針役ノ寡婦及ヒ幼孤ノ利益ニ供テ可シ  
 第千二百四十四條 若シ船長ノ學術足ラサルニ由ル  
 歟或ハ其處分ノ善ラサルニ由テ船舶ニ損害ヲ生セ  
 シムルキニ其船長ハ直接ニ蒙ラシメタル損害及ヒ  
 經費ノミナラス又商人ノ通船ニ關スル法律ニ原キ  
 テ船主ヨリ他ノ者ニ拂フ可キモノヲモ船主ニ返償  
 セサル可ラス  
 而シテ其船長ハ船長ノ義務ヲ盡スニ足ル可キ學術  
 ナ得ルノ證書ヲ更ニ受ケサル間ハ航海スルヲ禁止



セラル可シ  
 第一千二百四十五條 特別ナル法律上ノ事故ヲクシテ  
 船舶ノ役夫ニ渡ス可キ賃金ヲ抑留シ又ハ休暇及ヒ  
 法律上ノ證書ヲ受ク可キ權利ヲ有スル者ニ其休暇  
 及ヒ其證書ヲ與ヘサル船長ハ之カ爲メニ被辱人ヲ  
 満足セシメ及ヒ其遲滯ヲ以テ蒙ラシメタル損失ヲ  
 之ニ返償スルノ外十「ル」以下ノ贖金ニ處セラ  
 ル

第一千二百四十六條 縱令決定ノ場所ニ於テスト雖モ  
 税關廳或ハ檢疫廳ノ允許ナクシテ船舶ヨリ假荷ヲ

卸スニ就キ其船長ハ十「ル」以下ノ贖金ニ處セ  
 ラル縱令決定ノ場所ニ於テスト雖モ假荷ヲ水中ニ  
 陷レサルノ緊要ナル戒愼ヲクシテ其假荷ヲ卸スニ  
 就キ其船長ハ二十「ル」以下ノ贖金ニ處セラ  
 ル而シテ夜中ニ於テ擅ニ假荷ヲ卸スニ就テハ百「ル」  
 ブル以下ノ贖金ニ處セラ  
 船長ニアラスシテ商船ヨリ自船或ハ備船ニ假荷ヲ  
 卸スニ備ハレタル者ハ斯ノ如キ規則ヲ犯スヲ證徴  
 セラル、場合ニ於テ此條ニ確定シタル贖金ニ處セ  
 ラル而シテ其者ヲ備ヒシ船長ハ然ラストス(罰則第  
 七十八第



第一千二百四十七條 魯國領事ノ在ル外國ノ港ニ居留

スル船長ハ其領事ノ處ニ顯出セス及ヒ商法ニ掲載

シタル文書及ヒ報告書ヲ其領事ニ呈出セサルニ就

キ五[ル]ブル以下ノ贖金ニ處セラル但シ其贖金ハ

官ノ利益ニ供ス可シ

第一千二百四十八條 領事ヨリ已レニ渡ス所ノ証書ニ

就テ確定シタル税金ヲ納メサル船長ハ稅則書ニ對

照シテ斯ノ如キ稅額二倍以下ノ贖金ニ處セラレ

第一千二百四十九條 魯國ノ旗ヲ揚ルニ關スル領事ノ

證書ヲ以テ航行スル船舶ハ其證書ノ期限ヲ過キテ

魯國ノ港ニ來着シ而シテ船長ノ陳述シタル證據即

チ斯ノ如ク定期ヲ超過シタルノ緊要ナル證據ヲ以

テ注意ニ付ス可キモノト認知セサルハ魯國ノ港

ニ船舶ヲ歸セシムル爲メニ定メタル規則ヲ其船長

ニ遵守セシムルノ後百[ル]ブル以下ノ贖金ヲ科

シテ以テ航海ノ免許狀及ヒ魯國ノ旗ヲ揚ルノ免許

狀ヲ渡ス可シ

第一千二百五十條 船名ヲ擅ニ變換シタル船長又ハ其

變換スル事ニ關シ及ヒ船舶ノ歸スル港口ノ稅關ニ



其船舶ヲ賣却或ハ修繕ノ事ヲ告知スルニ關シテ法律ニ定メタル規則ヲ遵守セザルシ船長ハ船主カ斯ル如キ義務ヲ盡サ、ルニ就キ第千二百十四條及ヒ第千二百十五條ニ確定シタル贖金ニ處セラレ第千二百五十一條ニ乗組ヲ成立ニ變換アル事ヲ魯國領事ニ告知ス可キ定規ヲ遵守セザリシ船長ハ魯國ニ歸來ノ後百「ル」以下ノ贖金ニ處セラレ

(注)前文第千二百四十九條ヨリ第千二百五十一條ニ至ル各條ニ掲載サレタル場合ニ於テハ其各條ニ確定シタル贖金ヲ拂ヒシ後又ハ船長或ハ船主ヨ

質物或ハ賴答ニ足ル可キ保証ヲ呈セシ後ニ於テ其船舶ヲ航海スルヲ允ラシ

第千二百五十三條ニ測量士官ハ船舶ニ於テ己レノ義務正ク盡サヌ又ハ船舶ノ役夫及ヒ航夫ヲシテ其義務ヲ盡サシムルニ注意セザルルハ之カ爲メニ缺謬ヲ輕重ニ依リ一箇月ヨリ多カラサル在職時間ノ減殺ニ處セラレ

而シテ若シ其缺謬ヨリシテ損害ヲ生ゼシタルトシテ他ノ本罪人ト共ニ其損害ヲ返償セサル可ラス

第千二百五十三條ニ港内及ヒ海上ノ船舶ニ關スル事



變アルニ於テ簿冊或ハ日誌不正ニ取扱フニ就キ  
 二十五ル以下ノ贖金ニ處セラル  
 第一千二百五十四條 不在ナル船長ノ義務ヲ盡ス可キ  
 測量士官此前文第千二百二十一條ヨリ第千二百三  
 十四條ニ至ルノ各條及ヒ第千二百三十六條ヨリ第  
 千二百五十一條ニ至ルノ各條ニ掲載シタル犯罪及  
 ヒ缺謬アルニ就テハ船長ニ關シテ其各條ニ定ムル  
 所ノ刑罰及ヒ贖金ニ處セラル可シ  
 第一千二百五十五條 若シ船舶ヲ己レノ責任トシテ受  
 取リタル嚮導者或ハ案針役ハ其船舶ヲ石上瀬上或

岸上ニ突乘セシムルヒニ嚮導ノ賃金ヲ剝奪セラ  
 ル、ノ外左ノ罰ニ處セラル但シ糾追ニ由テ其者ノ  
 不注意ニ出テタルヲ發見セラレ、ヒハ損害ト同一  
 ノ贖金ニ處セラル  
 而シテ若シ其者ノ故意ニ出テタルヲ確知セラレ、  
 且ハ此前文第千二百三十一條ニ確定シタル罰ニ處  
 セラル  
 第一千二百五十六條 濱岸或ハ港口ノ嚮導者或ハ案針  
 役ハ船舶ノ危殆ニ罹ルニ合圖ヲ受ケ又ハ船舶ヲ恐  
 畏セシムルノ危殆アルヲ認メテ以テ其時ニ救援シ



得可キヲ救援セザルハ八箇月ヨリ少カラズ三年  
 四箇月ヨリ多カラザル時間ヲ禁獄ニ處セリ且嚮  
 導者或不案針役トナルヲ禁止セラル  
 第一千二百五十七條 船舶ヲ不幸ニ陥ル、ノ故意ヲ以  
 テ其船舶ヲ開裂或ハ衝突シ又ハ器械ヲ損毀シ又  
 其他ノ損害ヲ船舶ニ蒙ラシムル船舶ノ役夫ハ故意  
 ナリ以テ船舶ヲ沈没セシムルニ就キ此刑法第千六百  
 十七條及第千六百十九條ニ確定シタル罰ヲ重キモ  
 ノニ處セラレ得ニシテ其罪ニ由リ其害  
 船舶ノ役夫若シ亦船舶ヲ不幸ニ陥ル、ノ故意ヲ以

テ彼ノ船舶ヲ保安或ハ救護スルニ緊要ナル船長ノ  
 命令ヲ遵守セザルニ由リ果シテ其船舶ノ破壊スル  
 事ハ同上ノ罰ニ處セラレ得シテ其罪ニ由リ其害  
 第一千二百五十八條 船舶ノ役夫ハ淺瀬或ハ暗  
 礁ニ導クノ故意ヲ以テ船長ノ命令ヲ遵守セザル  
 事ハ之ヨリ生シタル損害及ヒ經費ヲ返償スルノ外  
 前文第千二百五十七條ニ確定シタル罰ニ處テ得ル  
 然レモ只一等ノミ輕減セラル可シ  
 第一千二百五十九條 船舶ニ水ヲ計量セザル可ラス及  
 ヒ緊要ノ時ニ水ヲ注出ス可キニ配慮セザル可ラス



ル船舶ノ役夫ハ船長ノ命令ニ注意セスシテ以テ其義務ヲ盡サルニ就キ三晝夜間ヨリ多カラサル時間ノ賃金ヲ減殺セララル

若シ又斯ノ如キ缺謬ニ由テ船舶或ハ荷物ニ損害ヲ蒙ラシムルキハ其船舶ノ役夫ハ己レカ蒙ラシメタル損害ヲ返償スルノ外四箇月ヨリ少カラス八箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セララル

第一千二百六十條 船舶ノ役夫及ヒ航夫ハ己レノ署名シタル契約書ヲ實行スルノ際ニ商品或ハ荷物ヲ完全ニ保存シ及ヒ守護ス可キ己レカ船舶上ノ義務ニ

干涉スル諸件並ニ航行ノ資助ニ干涉スル諸件ニ於テ船長案針役或ハ測量士官及ヒ下士官長ノ命令ヲ遵守スルノ速ナラサルヲ顯ハスルハ斯ノ如ク己レカ義務中ノ一ヲ犯ス毎ニ一週間ヨリ多カラサル時間ノ賃金減殺ニ處セララル

第一千二百六十一條 船舶ノ役夫或ハ役夫ハ航行ノ時己レノ義務ヲ盡スニ方テ船長ニ判然ト服從セサルキハ之カ爲メニ事ノ情實ニ依リ其船長ノ見込ニ依テ五打ヨリ多カラサル施体ノ杖刑又ハ重キ場合ニ於テ七日ヨリ少カラス三箇月ヨリ多カラサル時間



英拘留ニ處セラルル者ハ三箇月ニ限ル

第一千二百六十三條 船舶ノ役夫及ビ航夫及ビ凡ク商

船ニ在ル者ハ船長ニ對シテ暴動ヲ興スル以テ其船長

ノ船舶ニ關スル管理ヲ剝奪シ及ビ其船舶ヲ強取シ

又ハ休暇人ヲ増加ス可ク或ハ餘分ノ者ヲ休暇セシ

メ可ク或ハ緊要ニ及ビ法律上ノ事故ナク航路ヲ

變換ス可ク或ハ港灣ニ入ル可ク或ハ濱岸ニ寄ル可

ク等夫船長ニ強要シ以テ之ニ其或ル所行ヲ爲シ

ムルキハ之カ爲メニ其各人ハ其事ニ加與スルハ輕

重ニ依リ政府ノ定メタル權官ニ對スル暴動ニ就キ

此刑法第二百六十三條ヨリ第二百六十六條ニ至ル

ノ各條及ビ第二百六十八條ヨリ第二百七十六條ニ

至ルノ各條ニ確定シタル罰ニ處セラルル者ハ

第一千二百六十三條 船舶ニ在テ乘組又ハ其他ノ者

中ニテ航海ノ時ニ言辭或ハ所行ノ侮辱ヲ船長ニ加

フルヲ敢テスル者ハ侮辱ニ就キ勸解罰則ノ第三百

三十一條及ビ第三百三十五條ニ確定シタル罰ヲ最重

ナルモノニ處セラレ

又此主義ヲ以テ其者ハ船長ヲ劫迫スルニ就キ勸解

罰則第三百三十九條ヨリ第四百一十一條ニ至ルノ各條



並ニ此刑法第千五百四十五條第千五百四十六條及  
第千五百四十八條ニ確定シタル罰ノ最重ナルモ  
ノニ處セラレ

第千二百六十四條 船舶ニ在ル人ノ中ニテ其船舶ノ  
航海ノ時ニ竊盜ヲ爲ス者ハ家宅ニ於テ爲シタル竊  
盜ニ就キ定メタル所ノ罰ニ處セラレ

第千二百六十五條 船舶ノ役夫航夫及ヒ船舶ノ乗組  
タル諸人並ニ乗客ハ其船舶ニ在ル所ノ商品食糧及  
ヒ其他ノ物品又ハ船舶ノ帆綱及ヒ其他ノ要具ヲ滅  
盡或ハ損毀スルルハ之カ爲メニ左ノ罰ニ處セラレ

但シ其者ノ不注意ニ出テタルルハ滅盡或ハ損毀シ  
タル物品ノ價直ニ倍以下ノ贖金ニ處セラレ故意ニ  
出テタルルハ他ノ者ノ財産ヲ滅盡或ハ損毀スルニ  
就キ確定シタル罰ノ最重ナルモノニ處セラレ

第千二百六十六條 船舶ノ役夫或ハ航夫ハ番衛ノ順  
番ヲ免レ又ハ番衛ノ時間ニ睡眠ヲ始メ或ハ酩酊  
見ヘタルルハ二晝夜ノ賃金ヲ減殺セラレ  
若シ又之カ爲メニ船舶或ハ其荷物ニ損失ヲ蒙ラシ  
メタルルハ其蒙ラシメタル損失ヲ返償セサル可ラ  
ス



第一千二百六十七條 番衛タル船舶ノ役夫或ハ航夫ハ

船舶ニ賊盜ヲ來ル場合ニ於テ故ヲ合圖ヲ爲サス

及ヒ他ノ船舶ノ役夫ヲ呼集セス並ニ船舶ニ兵盜ノ

襲撃スルニ方テ船舶又ハ船舶ニ在ル所ノ商品或ハ

荷物ヲ防守スルヲ得可クシテ故ヲ防守スルニ加

ハラス及ヒ船舶ヲ劫奪セシメ或ハ船舶ニ損害ヲ蒙

ラシムルハ竊盜或ハ兵盜或ハ其犯圖ノ同謀人ノ

如ク此刑法第百十九條ニ確定シタル規則ニ原キテ

罰ニ處セラレル

第一千二百六十八條 船舶ノ役夫或ハ航夫ハ火災ノ時

或ハ破船ノ時ニ方テ船舶ヲ救援スルニ緊要ナル所

行ニ關スルノ命令ヲ遵守セサルハ危殆ニ在ル船

船ヲ救援スルノ方策ヲ取用セサル船長ニ就テ此

文第一千二百二十七條ニ確定シタル罰ニ處セラレ

(注目)船舶ノ役夫ハ危殆ニ在ル船舶ヲ救援スルニ

涉スル船長ヲ命令ヲ遵守セサル場合及ヒ其他非常

ノ場合ニ於テ船長ハ商法(第九百八十三條及

シタル規則ニ原キテ不聽從ノ者ニ船内戒罰ヲ方策

ヲ使用シ可シ

第一千二百六十九條 若シ互ニ守禦ス可キ商船ノ役夫



或ハ航夫ハ其商船中ノ一ニ敵ヲ襲撃スル場合ニ於テ其商船ノ守禦ニ干涉スル船長ノ命令ヲ遵守セス又ハ縦令船長ト俱ニスト雖モ故意ヲ以テ守禦セサルキハ海軍法ニ確定シタル罰ニ處セラレ

第一千二百七十條 若シ船舶ノ役夫或ハ航夫ハ船長測量士官或ハ案針役ニ告知セスシテ船舶ヨリ一日或ハ一夜他出スルキハ三晝夜間ノ賃金ヲ減殺セラレ若シ又斯ノ如キ隨意ノ他出ヨリシテ船舶或ハ荷物ニ或ル損失ヲ蒙ラシメタルキハ其損失ヲ返償セサル可ラス

第一千二百七十一條 若シ船舶ノ役夫或ハ航夫全ク船舶ヨリ遁去シ又ハ船舶ニ赴クヲ拒否スルキハ他出或ハ拒否セシ後三晝夜間ヲ過ルノ後其者ハ諸役料ト及ヒ船舶ニ殘遺スル自己ノ所有物トヲ悉ク剝奪セラレ而シテ其諸役料及ヒ其所有物ハ船主ノ利益ニ供ス可シ 若シ又斯ノ如キ事ノ航行ノ時ニ生シ而シテ船長ハ遁去スル者ノ代リニ他ノ役夫ヲ傭入ル可キキニ於テ其逃亡ノ罪人ハ船長ノ曾テ此罪人ト約定シタル賃金ヨリモ多ク其罪人ノ代リニ傭入レタル役夫ニ



拂ヒタルモノヲ悉ク船長ニ返償セサル可ラス之ニ  
加フルニ斯ノ如キ場合ニ於テ事故ナク職務ヲ拒否  
スルニ就キ其船舶ノ役夫或ハ航夫ハ船長ノ詞訟ニ  
依リテ七日ヨリ少カラズ三週間ヨリ多カラサル時  
間ノ拘留ニ處セラル

而シテ船舶ヨリ逃亡スルニ就テハ二箇月ヨリ少カ  
ラス四箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セラル  
第一千二百七十二條 船舶ヨリ逃亡シタル船舶ノ役夫  
或ハ航夫ヲ藏匿スルヲ證徴セラレタル者ハ一人毎  
及ヒ一晝夜毎ニ付キ十「ル」以下ノ贖金ニ處セ

ラル

第一千二百七十三條 船舶ノ役夫或ハ航夫ハ己レガ船  
長ノ允許ナク船舶ニ在ル所ノ小舟或ハ運荷船ヲ使  
用スルニハ初度ニ於テハ一週間ヨリ多カラサル時  
間ノ賃金減殺再度ニ於テハ二週間ヨリ多カラサル  
時間ノ賃金ヲ減殺セラル

第一千九十八條 驛遞局ヨリ遣送スル金子入ノ包物或  
ハ送物ヲ竊取或ハ隱藏スルノ驛遞官吏或ハ驛遞脚  
夫又ハ其他ノ驛遞小吏ハ職務ニ由テ委任サレタル  
所有物ヲ私有スルニ就キ此刑法第三百五十五條ニ



確定シタル罰ニ處セラル

而シテ隱藏シタルモノヲ返却シ及ビ之カ爲メニ蒙  
ラシメタル損失ヲ返償セサル可ラス

第一千九十九條 爲替手形又ハ或ル種類ノ證書ヲ入レ

タル書狀或ハ包物ヲ隱藏シ或ハ故意ヲ以テ抑留ス  
ル驛遞官吏及ヒ驛遞小吏ハ同上ノ罰ニ處セラル可

シ(第一千百  
十條)

第一千百條 前文第一千九十八條及ヒ第一千九十九條ニ記

載スルモノ、外驛遞局ヨリ遣送スル書狀或ハ其他

ノ文書ヲ隱藏シ或ハ故意ヲ以テ抑留スルノ罪人ハ

身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑

法第三十一條ノ第五等ニ依テ懲囚隊内ノ編入ニ處

セラル

第一千百一條 驛遞局ヨリ遣送シ或ハ驛遞ノ馬ヲ以テ

遣送スル物品又ハ驛遞ノ車ヲ以テ出行スル者ニ屬

スル物品ヲ竊取スルノ驛遞御者及ヒ驛遞脚夫ハ驛

遞ノ車ヨリ竊取スルニ就キ此刑法第一千六百五十一

條ニ確定シタル罰中ノ最嚴ナルモノニ處セラル

第一千百二條 若シ驛遞官吏或ハ驛遞脚夫或ハ其他ノ

驛遞小吏ハ不注意ニ由ルニアラス或ル目的ヨリシ



テ或者ニ名宛シタル書狀ヲ其者ノ允許ナク他ノ者ト同意シテ之ニ授與スルハ身体及ヒ族位ニ属シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十三條ノ第二等ニ依テ西比利諸縣ヲ除クノ外他ノ遠縣在所ノ放流或ハ勞役舍内ノ禁錮ニ處セラル

第一千百三條 驛遞局ノ官吏ハ不注意ニ由テ金子入ノ包物或ハ送物ヲ紛失スルハ嚴譴或ハ七日ヨリ少カラス三箇月ヨリ多カラサル時間ノ拘留又ハ六箇月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル在職時間ノ減殺之ニ加フルニ其官吏ハ貨幣或ハ送物ヲ紛失セラ

レシ者ニ驛遞局ヨリ返償セサル可ラサル所ノ金額ヲ驛遞局ニ拂ハサル可ラス

第一千百四條 驛遞局ヨリ遣送センカ爲メニ付托シタル書狀或ハ驛遞局ニテ受領シタル書狀ニシテ他ノ者ノ名宛アルモノヲ開封シタル驛遞官吏或ハ驛遞小吏ハ縱令只見ルヲ欲スルノミニ出ルト雖モ退職ニ處セラル

若シ又其官吏ハ他ノ者ニ書狀ノ文意ヲ通知セシカ爲メニ開封シタルキハ四箇月ヨリ少カラス八箇月ヨリ多カラサル時間懲治舍内ノ禁錮ニ處セラル

第三



百五  
十條

第千百五條 (千八百六十九年間) 驛遞局ヨリ遣送ス可  
 キ請合書狀ヲ不注意ニ由テ紛失シ或ハ凡テ故意ナ  
 ク紛失スルノ罪人タル驛遞官吏ハ出狀人ニ返償ス  
 ル爲メニ彼ノ驛遞規則ヲ以テ確定シタル金額ヲ納  
 メサル可ラサルニ拘ハラス前文此刑法第千百三條  
 ニ確定シタル罰ニ處セララル  
 尋常書狀或ハ包物ヲ斯ノ如ク紛失スルニ就テハ初  
 度ニ於テハ監察再度ニ於テハ譴責三度ニ於テハ六  
 箇月在職時間ノ減殺ニ處セララル

而シテ其後ニ亦斯ノ如キ缺謬アルヲ證徴セララル  
 者ハ退職ニ處セララル  
 之ニ加フルニ若シ尋常書狀或ハ包物ヲ遣送シタル  
 者ハ紛失シタル書狀或ハ包物ノ代リニ他ノ書狀或  
 ハ包物ヲ發遣スルヲ望ムキニ其書狀或ハ包物ハ紛  
 失シタル罪人ノ入費ヲ以テ發遣セララル可シ  
 第千百六條 遣送ノ請合書狀及ヒ尋常書狀ヲ故意ナ  
 ク抑留スルノ罪人タル驛遞官吏ハ前文第千百五條  
 ニ確定シタル罰ニ處セラル而シテ其罰ノ等級モ同  
 一タル可シ



第一千七百七條 驛遞脚夫ハ通信或ハ送物附ノ革櫃紐袋  
 行李ヲ只不注意ノミニ由テ紛失シ並ニ已レカ委任  
 セラレタル貨幣送物或ハ書狀ヲ不注意ニ由テ竊取  
 セラル、并ハ番卒ヲ命セラレ或ハ七日ヨリ少カラ  
 ス三箇月ヨリ多カラサル時間ノ拘留或ハ退職ニ處  
 セラル

第一千百八條 配達ノ書狀或ハ其他ノ包物ヲ故意ナク  
 紛失或ハ抑留スルノ驛遞脚夫ハ同上ノ罰ニ處セラ  
 ル可シ

第一千百九條 驛遞局ノ官吏ハ重量或ハ郵便税ヲ私ス

ルルハ職務ニ由テ委任サレタル財産ヲ私有スルニ  
 就キ此刑法第三百五十四條ニ原キテ其條ニ確定シ  
 タル贖金及ヒ刑罰ニ處セララル

第一千百十條 遣送人或ハ遣送人ノ無學ナルニ由リ其  
 代理人ヲシテ出狀人名簿ニ發遣ノ事ヲ自筆ニテ記  
 入セシムルヲナク貨幣送物及ヒ請合書狀ヲ遞送セ  
 ンカ爲メニ之ヲ受領スルノ罪人タル驛遞官吏ハ退  
 職ニ處セラレ而シテ若シ之レヨリ紛失ヲ生スルル  
 ハ驛遞局ニ於テ紛失ノ返償ニ使用シタル金額ヲ拂  
 フ可シ



若シ又遞送ス可キ物品ヲ私有スルノ目的ヲ以テ之ヲ爲シタルハ前文第九十八條ニ原キテ罰セラル

第千百十一條 受領人ト出狀人ト密謀シ又ハ出狀人

ニ告知セス或ハ定リタル簿冊ノ代リニ他ノ簿冊ヲ

出狀人ニ偽出シテ以テ彼ノ出狀人名簿ニ請合發遣

ヲ制規ノ如ク記載シタル事ヲ請取書ニ偽載シ並ニ

請取書ヲ授受スルニ方テ背法ノ所行アル場合ニ於

テハ其罪科ヲ以テ證徴サレタル驛遞官吏ハ職務上

ノ詐偽ニ就キ此刑法第三百六十二條ニ確定シタル

罰ニ處セララル

而シテ若シ驛遞脚夫ハ驛遞官吏ト密謀セシテ以テ

罪セララル、ハ此刑法第一百十九條ニ定メタル規則

ニ依テ斯ノ如キ詐偽ノ同謀人ノ如ク罰セララル

第千百十二條 火藥燧木及ヒ可燃物可染物刺戟物易

燃物並ニ含酸物ヲ遞送スルノ罪人ハ他ノ包物或ハ

送物ニ蒙ラシメタル損害ヲ返償スルノ外己レガ送

物中ニ在ル不禁制ノ物品モ亦悉ク沒收セララル

然レモ若シ其送物中ニ證書或ハ其他ノ文書アルヲ

見出スハ其文書ヲ渡ス可キ處ニ渡ス可シ然レモ



受領人ヨリ贖金ヲ科ス但シ其受領人ガ其文書ヲ受領スルヲ拒マサルキニハ然リトス而シテ若シ之ニ反スル場合ニ於テハ發遣人ヨリ其贖金ヲ科ス但シ其贖金ハ斯ノ如キ文書及ヒ證書ニ從フ可キ郵便税ノ四倍タル可シトス

又斯ノ如キ事件ニ關シテ驛遞規則ヲ遵守スルヲナク流動物ヲ遞送スルノ罪人モ此條ニ確定シタル罰ニ處セララル可シ

第千百十三條 郵便車主及ヒ運漕船主ハ書狀貨幣及ヒ輕品ヲ受領及ヒ運輸スルキハ初度ニ於テハ二百

「ル—ブル」ノ贖金再度ニ於テハ郵便車及ヒ運漕船ヲ所有スルノ權利ヲ剝奪セララル

郵便車或ハ運漕船ノ指揮者或ハ監視人ハ斯ノ如キ擅用アルヲ證徴サレタルキハ初度ニ於テハ郵便税及ヒ請合金ノ四倍ヲ科セラレ再度ニ於テハ爾後斯ノ如キ職務ヲ行フノ禁止ヲ以テ免職ニ處セララル

第千百十四條 驛遞局ヲ經スシテ書狀貨幣及ヒ輕品ヲ傳送センカ爲メニ私舎ヲ設ルノ罪人ハ館舎存在ノ一箇月毎ニ付キ五十「ル—ブル」以上百「ル—ブル」以下ノ贖金ニ處セララル而シテ其館舎ハ廢毀セララル可



第千百十五條 驛遞局及ヒ驛遞分局ヲ管理スル者及  
 ヒ凡テ貨幣通信及ヒ送物通信ノ受領ヲ管理スル者  
 ハ其受領ノ爲メニ政府ヨリ設ケタル場所ニ於テ其  
 通信ヲ處分セス及ヒ已レカ驛遞局ヲ通過ス可キ通  
 信ヲ重大ノ事故ナクシテ定時ヨリモ久ク抑留スル  
 事ハ初度ニ於テハ監察再度ニ於テハ官廳ノ見込ニ  
 依テ嚴寬ノ譴責三度ニ於テハ六箇月ヨリ少カラサ  
 ル在職時間ノ減殺ニ處セラレ

而シテ此後ニ於テモ亦斯ノ如キ缺謬アルヲ證徴セ

ラル者ハ退職ニ處セラレ  
 第千百十六條 一箇月毎ニ第二郵便ヲ以テ郵便稅ヲ  
 送出ス可キ處ニ送出セラルノ罪人ハ官吏ヲ其貯存  
 スル官金ヲ緊要ノ時ニ送出セザルニ就キ此刑法第  
 三百五十六條ニ確定シタル贖金及ヒ刑罰ニ處セラ  
 ル

第千百十七條 貨幣ノ包物ヲ受領シタル合計書ヲ緊  
 要ノ時ニ廻送セザルノ驛遞長及ヒ各縣廳ノ出納官  
 並ニ郡ノ驛遞長及ヒ副驛遞長ハ其合計書ヲ抑留ス  
 ル時間ノ長短ニ依テ嚴寬ノ譴責ニ處セラレ



若シ又其合計書ヲ抑留セシカ爲メニ驛遞局ノ受領シタル金額ノ隱藏ヲ速ニ露顯セサルハ其官吏ハ隱藏サレタル金額ヲ返償セサル可ラス但シ隱藏シタル本罪人ハ身位ナキモノト証セラルハ、キニハ然リトス

第千百十八條 出狀人名簿及セ受領シ貨幣通信請合通信及セ送物通信ノ日誌並ニ金額出納ノ日誌ヲ定期中ニ送出セサルノ罪人ハ初度ニ於テハ其者ノ勤務帖ニ記載セサルヲ隨責再度ニ於テハ其者ノ勤務帖ニ記載スルヲ隨責三度ニ於テハ在職時間一年ノ減殺

ニ處セラル

若シ三郵便ヲ過キテ郡廳ヨリスノ如キ合計書ヲ送致セサルハ縣廳ヨリ之カ爲メニ郵便狀ニ關スル專任官吏ヲ差遣ス但シ其費用ハ罪人ヨリ出ス可シ第千百十九條 官府ヨリ郵便車主ニ渡ス可キ郵便車及ヒ郵便狀ヲ運致スルノ賃金ヲ不正ニ抑留シ或ハ其他斯ノ如キ賃金ヲ渡ス時ニ郵便車主ヲ壓責スルヲ証徴サレタル驛遞官吏ハ初度ニ於テハ六箇月ヨリ多カラサル在職時間ノ減殺再度ニ於テハ退職ニ處セラル



而シテ其官吏ハ之カ爲メニ蒙ラシメタル總テノ損  
失ヲ郵便車主ニ返償セサル可ラス

第一千百二十條 書狀或ハ送物ヲ密輸スルノ驛遞脚夫

ハ郵遞ノ職務ヲ免除セララル

第一千百三十一條 郵便車ニ附從スルノ時間ニ於テ酒

店ニ入ルノ驛遞脚夫ハ同上ノ罰ニ處セララル可シ

第一千百三十二條 定税ヲ免レンカ爲メ出狀人名簿ニ

記載スルヲナク竊ニ送物ヲ驛遞官吏或ハ驛遞脚夫

ニ付托スル通信者ハ送物ヲ價直ニ應スル郵便税及

ヒ請合税ヲ科セラル而シテ其送物ハ沒收セララル可

而シテ驛遞官吏或ハ驛遞脚夫ハ初度ニ於テハ退職

再度ニ於テハ驛遞ノ職務ヲ免除セララル

第一千百三十三條 書狀或ハ送物ニ入レタル貨幣或ハ

物品ヲ出スルニ其事ヲ告知スルコトナク之ヲ遞送ス

ルニ就テハ其貨幣或ハ物品ハ沒收セララル

而シテ其四分一ハ發覺人ニ付與セラレテ其餘殘

官府ニ入ル可シ

第一千百三十四條 人ニ「フ」以上ノ重量アル送物及

包物或ハ行李ニ書狀或ハ文書ヲ密入スルニ就テハ



「ロート」ニ付キ九十「コペー」宛ノ贖金ヲ科ス可シ  
 送物ニ証書ヲ入ル、ニ就テハ「ロート」ニ付キ一「ル  
 ーブル」八十「コペー」宛ノ贖金ヲ科ス可シ  
 第一千二百二十五條 各省ニ奉職スル官吏遞送ス可キ官  
 ノ包物及ヒ送物ニ私ノ書狀証書及ヒ送物ヲ入レ並  
 ニ官印ヲ以テ別ニ之ヲ送ルルハ官府ノ損失ヲ返償  
 スル爲メ一書狀ニ付キ九十「コペー」宛ノ贖金ヲ科  
 ス可シ  
 又一送物ニ就テハ「ロート」ニ付キ一「ルーブル」八十  
 「コペー」宛ノ贖金ヲ科ス而シテ其送物ハ沒收ス可

シ  
 之ニ加フルニ管廳ハ其罪人ヲ己レノ見込ニ依テ罰  
 三處モサレ可ラス  
 斯ノ如キ所爲ヲ以テ貨幣ヲ傳送スルニ就テハ亦其  
 貨幣ヲ沒收ス可シ  
 第一千二百二十六條 魯國ヨリ境外ニ書狀ヲ密輸シ及ヒ  
 其書狀ヲ軍艦及ヒ蒸氣船ニテ運輸スルノ罪人ハ一  
 書狀毎ニ付キ七「ルーブル」五十「コペー」宛ノ贖金ニ  
 處セラレ  
 而シテ贖金總額ノ五分一ハ發覺人ニ付與セラレテ



其餘殘ハ驛遞局ノ入額ニ歸ス可シ

第一千二百二十七條 通行人ノ詞訟ヲ記載セシメンカ爲

又驛場ニ定メタル簿冊ヲ隱藏シ及ヒ緊要ノ場所ニ

驛場ノ里程表及ヒ驛馬ノ賃金表ヲ揭示セサルノ監

視人即チ驛遞脚夫ノ中ヨリ此職務ヲ任セラレタル

者或ハ自ラ好シテ之ニ任スル者ハ在職時間六箇月

ヲ減殺ニ處セラレテ有罰ヲ受ル

陸軍下士官ノ中ヨリ斯ノ如キ職務ニ就キシ者ハ退

職ニ處セラル

而シテ「リフリヤンド」縣「エストリヤンド」縣及ヒ「ク

ルリヤンド」縣ノ驛遞委員ハ五「ル」以上三十五

「ル」以下以贖金ニ處セラレ

第一千二百二十八條 若シ通行人ノ強要ニ由リ馬ヲ急驅

セシヨリ其馬ノ斃傷スルキニハ其罪人ヨリ左ノ金

額ヲ科ス可シ但シ其馬強壯ニテ驛場ヨリ發出シ而

シテ規則ニ定メタル里數ヨリ多ク馳驅シタルノ証

アルキニハ然リトス而シテ斯ノ如キ罪人ニ其馬

關スル約定書ヲ以テ治定シタル金額ヲ科ス可シ

第一千二百二十九條 驛遞脚夫ノ馬及ヒ驛遞局ニ定メ

ル馬ヲ除ク外驛馬ノ驛場ニ在ルキニ法律上ノ特



別ナル事故ナクシテ其驛馬ヲ通行人ニ渡サス及ヒ私備ノ如クニシテ其驛馬ヲ發出シ及ヒ驛馬ノ缺乏ニ由テ通行人カ私備ノ馬ヲ以テ出起シタルヲ驛馬取立帳ニ記載セス並ニ強要シテ規則ヨリ餘分ノ驛馬ヲ取り或ハ定税ヨリ餘分ノ驛馬税ヲ拂ハシムルノ驛馬監視人ハ法ニ背テ取りタル者ノ三倍ヲ返却スルノ外在職時間一年ノ減殺又更ニ驛遞委員ニ任セラルル者ノ禁止ヲ以テ退職ニ處セラルル事

第千百三十條 通行人ニ對シテ粗暴或ハ爭論ヲ爲シ又ハ之ヨリ過度ノ要求ヲ爲スノ驛遞御者及ヒ驛遞

脚夫ヲ傍看スルノ罪人モ亦同上ノ贖金及ヒ刑罰ニ處セラレ可シ

第千百三十一條 驛場ニ定シタル規則ヲ犯シ並ニ御者脚夫乗車及ヒ馳驅ヲ監視セサルノ驛馬監視人又ハ「リフリヤ」シド「縣」エストリヤシド「縣」及ヒ「クールヤシド」縣ノ驛遞委員ハ罪科ノ種類及ヒ等級ニ依リ監察或ハ嚴寬ノ譴責ニ處セラレ

而シテ一度以上斯ノ如キ缺謬アルニ就テハ退職ニ處セラレ

又其者驛馬取立証書ヲ記載スル爲メニ定メタル簿



册ニ其証書ヲ緊要シ時ニ記載セザルニ就テモ同上  
ノ罰ニ處セラル可シ

第一千百三十三條 他人ノ郵便車ヲ以テ擅ニ運輸スル  
ノ驛遞脚夫ハ退職ニ處セラル

若シ其運輸ヨリシテ或ル損失ヲ生ズルノ場合ニ於  
テハ其損失ヲ返償セサル可ラス

若シ驛遞長或ハ驛場監視人ハ他人ノ郵便車ヲ以テ  
運輸ス可キコトヲ驛遞脚夫ニ命シタルキハ初度ニ於

テハ其者ノ勤務帖ニ記載スル嚴譴再度ニ於テハ退  
職ニ處セラル

若シ又其運輸ヨリシテ郵便車ノ爲メニ或ル損失ヲ  
生ズルキハ驛遞長或ハ監視人ハ其損失ヲ返償セサ

ル可ラス  
定規ニ依リ郵便車ヲ以テ出發ス可キ乗客外ノモノ

ヲ郵便車ニ延入シタル郵便車ノ監視人ハ初度ニ於  
テハ五十ルノズル以上三十ルノズル以下ノ贖金再度

ニ於テハ退職ニ處セラル  
第一千百三十三條 他人ノ郵便車ニ乘テ通行スル者ヲ

止メサルノ驛場監視人即チ驛遞脚夫ノ中ヨリ此職  
務ニ任セラシタル者及ヒ自ラ好シテ之ニ任スル者







行李等ノ損毀ハ何人ニ屬スルヤ若シ上告セズ又ハ証書ニ記載セザル書狀及ヒ送物ヲ發遣シ又ハ凡テ職務上ノ義務ヲ履行スルニ遲滯シ又ハ通行人等不當ニ交接ヲ爲シ及ヒ此章以前文數條ニ明掲シタル違罪ヲ爲スノ罪人タル驛遞官吏ハ此刑法第四百十條及ヒ第四百十一條ニ定メタル規則ニ如ク或ハ監察或ハ嚴寬ノ譴責或ハ在職時間六箇月或ハ一年ノ減殺又ハ退職ニ處セラル

第一千三十六條 驛遞脚夫ヨリ驛場ヲ監視人ニ任セラル、者及ヒ自ラ好シテ之ニ任スル者ハ郵便ヲ速ニ發遣セス職務ニ注意セス及ヒ驛場ニ來着スル者ト粗暴ノ交接ヲ爲シ及ヒ其他ノ缺謬ヲ爲シ並ニ前文第一千二十七條及ヒ第一千二十九條ヨリ第一千三百三十三條ニ至ル各條ニ明掲セサル違罪ヲ爲スニ就テハ譴責或ハ在職時間六箇月或ハ一年ノ減殺或ハ退職ニ處セラル

非職ノ陸軍下士官ノ中ヨリ任セラレタル驛場ヲ監視人ハ斯ノ如キ缺謬及ヒ其他ノ違罪アルニ就テハ譴責或ハ他ノ驛場ニ轉任或ハ退職ニ處セラル

「オストゼイスク」地方ノ驛遞委員斯ノ如キ缺謬或ハ



違罪アルニ就テハ譴責或ハ一ルル以上十ルル  
ブル以下ノ贖金或ハ退職ニ處セララル

第一千百三十七條 驛場ノ監視人ナキ驛場ヲ監視スル  
爲メ郵便車主及ヒ驛遞御者ト定メラル、主長及ヒ  
書記生ハ第一千百二十七條及ヒ第一千百二十九條ヨリ  
第一千百三十三條ニ掲載シタル違罪ヲ爲スニ就テハ  
一ルル以上十ルル以下ノ贖金又ハ退職ニ  
處セララル

第一千百三十八條 驛遞脚夫及ヒ其他ノ驛遞小吏ハ驛  
場ニ來着スル者ト粗暴ノ交接ヲ爲シ又ハ職務上ノ  
義務ヲ不正ニ舉行シ及ヒ其他ノ欲謬ヲ爲シ並ニ前  
文數條ニ明掲セサル違罪ヲ爲スニ就テハ一日ヨリ  
少カラス三日ヨリ多カラサル時間ノ拘留又ハ番卒  
ヲ命セララル

○加利堡爾尼

第五百七十七條 船長船主若クハ其代理者及ヒ轍道  
郵驛搬運會社ノ執事者代理者若クハ其他各種ノ擔  
夫及ヒ代擔夫若シ各種ノ貨物ヲ某ノ船舶某ノ轍道  
郵驛搬運會社若クハ其他ノ擔夫ニ載入交付セスシ



テ詐テ其船載票收領單憑据單ヲ交付スル者ハ五年以下ノ禁固若クハ一千元以下ノ罰金ヲ科シ或ハ右ニ刑ヲ併科ス

第五百八十七條

凡害意アツテ左ノ各件ニ觸ル者ハ五年以下ノ禁固若クハ六月以上ノ禁固ヲ科ス

第一 各種轍道

瀛車ト馬車トヲ論セス

ノ各部分若クハ其鐵軌

支軌支道轉軌彎軌轍橋隱渠防堤車驛若クハ其他各種ノ轍道ニ附着連接セル建築物附着物ヲ轉移除去妨害破壊スル者

第二 各種ノ障碍物ヲ各種轍道ノ鐵軌上若クハ轍

道ニ連接セル轉軌支軌支道彎軌ノ鐵軌上ニ設置

スル者

第五百九十一條 凡害意アツテ各種ノ電線若クハ其

幾分若クハ之ニ連接セル属物器械ヲ墮下轉移妨害

破壊シ若クハ其鐵線ヲ切斷スル者ハ小罪トナス

第六百十八條 凡己レニ贈遺セラレサル各種ノ封書

ヲ其筆者若クハ其受贈者ノ准許ナクシテ故ラニ之

ヲ開緘閱覽シ若クハ閱覽スルヲ致ス者及ヒ其書

ノ不適法ニ開緘セラレタルヲ知リナカラ其准許

ナクシテ其文辭

全文ト節録トヲ論セス

ヲ傳播スル者ハ並ニ小



罪ト爲ス

第六百十九條

凡他人ニ贈遺セラレタル電送ノ消息

全文ト其幾分トヲ論セス

ヲ其人ノ准許ナクシテ故ラニ發泄ス

ル者ハ一千元以下ノ罰金若クハ一年以下ノ禁固ヲ

科シ或ハ右二刑ヲ併科ス

第六百二十條

凡他人ヲ妨害センカ爲メニ電送消息

ノ旨趣要義意思ヲ故ラニ變更スル者ハ上條ノ刑ヲ

科ス

第六百二十一條

凡電信局ニ從事セサル者若シ他人

ニ發シタル電送消息ノ意思ヲ得知セント企欲シ其

受贈者ノ准許協同ナクシテ其消息ノ封囊ヲ開滅ス

ル者或ハ其消息ヲ己レニ使用シ若クハ之ヲ破壞停

留シテ受贈者ニ達セザラシメント企欲シ詐テ受贈

者ト假冒シテ其消息ヲ己レニ受得スルヲ致ス者

ハ並ニ一千元以下ノ罰金若クハ一年以下ノ禁固ヲ

科シ或ハ右二刑ヲ併科ス

第六百三十八條

凡電信局ノ代理者運用者從事者若

シ電通ス可キ各種ノ消息ヲ其局ニ糾受シナカラ之

ヲ電送スルヲ故ラニ不肯怠惰シ若クハ故ラニ其

順次ヲ違ヘテ之ヲ遲延シ若クハ電送セラレタル各



種ノ消息ヲ交付スルコトヲ不肯怠惰スル者ハ小罪ト  
 ナス  
 右條例ハ其代價ヲ收領セサル各種ノ消息ヲ接受電  
 送交付セス又合衆國若クハ本州ノ政府ニ對スル反  
 罪及ヒ其他適法ノ官憲ニ抗抵スル所業ヲ謀議援助  
 懲慝鼓舞スル所ノ各種ノ消息或ハ奸詐ノ圖謀ヲ敷  
 衍シ不適法ノ行事ヲ勸誘鼓舞シ若クハ已決未決罪  
 犯ノ脱越ヲ便ス可キ各種ノ消息ヲ電送接受交付セ  
 サル者ヲ言フニ非ラス

第六百三十九條 凡電信局ノ代理者運用者從事者若

シ已レノ手ヲ經過シテ他人ニ發送スル各種ノ私報  
 若クハ其職掌ニ因テ人ニ信任セララル、カ爲メニ知  
 告セラレタル各種ノ私報ヲ以テ已レノ用ニ供シ或  
 ハ這樣ノ私報ニ根據シテ營商圖利シ若クハ之ヲ以  
 テ自己ノ計算贏利便益ニ轉化シ若クハ轉化セシト  
 試過スル者ハ一千元ノ罰金若クハ一年以下ノ拘禁  
 ナ科シ或ハ右二刑ヲ併科ス

第六百四十條 凡消息ヲ電送セララル、ニ當テ若シ故

ラニ各種ノ機器技械詭策ヲ以テ之ヲ閱讀シ若クハ  
 閱讀スルコトヲ試過シ若クハ其旨意ヲ知得スルコトヲ



試過シ或ハ其消息ノ現ニ電信局ニ在リ若クハ該局ニ接受セラレ若クハ該局ヨリ發送セラレ、ニ當テ故ラニ奸詐秘密ヲ以テ其旨意ヲ知得シ若クハ知得スルコトヲ試過スル者或ハ此ノ如クニシテ知得セル各種ノ報告ヲ使用シ若クハ使用スルコトヲ試過シ若クハ之ヲ他ニ通知スル者ハ並ニ一千元以下ノ罰金若クハ一年以下ノ禁固ヲ科シ或ハ右三刑ヲ併科ス

第六百四十一條 凡各種ノ財賄利誘謝物ヲ給與シ若クハ給與スルコトヲ約シテ電信ノ代理者運用者若クハ從事者ヲシテ各消息若クハ其消息ノ旨意趣向要

旨意思ヲ發泄セシメ若クハ發泄セシムルコトヲ試過シ或ハ其代理運用從事者タルノ職掌ノ爲メニ人ニ信任セラレテ接受スル所ノ各種ノ私報ヲ發泄セシメンカ爲メニ這樣ノ有司ニ各種ノ財賄勞金謝物ヲ餽贈シ或ハ此ノ如クニシテ知得セル各種ノ報告ヲ使用シ若クハ使用スルコトヲ試過スル者ハ一千元以下ノ罰金若クハ一年以下ノ禁固ヲ科シ或ハ右三刑ヲ併科ス

第六百四十四條 凡本州ノ諸水中ニ碇泊セル各船舶ノ水手ヲ誘引シテ其雇限内ニ其船ヲ棄去スル者ハ



小罪トナス

第六百四十五條

凡其雇入セラレテ船ニ之ク可キ水手タルコトヲ知リナカラ之ヲ勸誘シテ其船ヲ棄去セシメント希求シ因テ之ヲ窩藏隱匿スル者ハ小罪トナス

第四百七十四條

凡電信局若クハ宅ノ人氏ヨリ發シタル消息ト伴テ虛偽贋設ノ事ヲ人ニ電報スル者或ハ電告ニ因テ受得セル消息ト伴テ之ヲ人ニ交附シ若クハ交付スルコトヲ致ス者或ハ人ヲ誣賺妨害欺騙セント企欲シテ其消息ノ虛偽贋設タルコトヲ知リナ

カラ之ヲ其代理者首事者若クハ從事者ニ轉與シ若クハ轉與スルニ黨シ若クハ轉與スルコトヲ致シテ本人ニ電告交付セシムル者ハ並ニ一千元以下ノ罰金若クハ一年以下ノ禁固ヲ科シ若クハ右二刑ヲ併科ス

第三百四十八條

凡船長若クハ送客汽船ヲ掌ル者若クハ其汽罐汽機ヲ掌ル者無學識若クハ甚大ノ怠惰ニ由リ若クハ他ノ行船ヲ超過セント欲スルニ因テ過當ノ氣力ヲ起シ若クハ起スコトヲ致シ遂ニ其汽罐若クハ諸器械ノ爆發破裂ヲ生シテ人ノ生命ヲ危フ



スル者ハ小罪ト爲ス

第三百四十九條

凡工局轍路若クハ其他ノ機器場ニ

在テ瀆罐瀆器若クハ其他生瀆用瀆ノ器械ヲ掌ル者

故意若クハ無學識ニ因リ若クハ甚大ノ怠惰ニ因テ

過當ノ瀆力ヲ起シ若クハ起スヲ致シ遂ニ瀆罐諸

器械ノ爆發破裂若クハ其他不測ノ災害ヲ生シテ人

ノ生命ヲ危フスル者ハ小罪ト爲ス

第三百九十條

凡蓄瀆車ヲ主ツテ之ヲ行ル者若シ轍

路ノ横サマニ大路ヲ絶ル處ヨリ八十竿名ハ尺度ノ

十六尺有半以上ノ前地ニ擊鐘鳴瀆スルヲ欠脱ス

ル者ハ小罪ト爲ス

第三百九十一條

凡蓄瀆車ヲ主ツテ之ヲ行リ若クハ

管瀆車者トナツテ瀆車ヲ行リ若クハ御者トナツテ

車ヲ馳ル者若シ酒ニ酔ヒタルキハ小罪ト爲ス

第三百九十二條

凡轍路ノ聯車ヲ相繋キ若クハ之ヲ

行走セシムル者若シ行李輜重商貨材木ヲ載スルノ

車ヲ客車ノ後邊ニ接置行走シ若クハ接置行走スル

ヲ致ス者ハ小罪ト爲ス若シ是ニ由テ人ノ性命軀

体ニ傷害ヲ生スル者ハ大罪ト爲ス

第三百九十三條

凡轍路社ノ運瀆機者管瀆車者制輪



者轉轍者及七其他ノ執事者代理者若クハ使下若シ  
故ヲ三其職務ヲ違犯欠脱シテ人ノ性命安全ヲ累危  
スル者別ニ其刑ヲ掲記セサルハ一切ニ小罪ト爲ス

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が続く）

第七十二 海陸軍ニ物品ヲ供給スル者ノ罪

○佛蘭西

第四百三十條 海陸軍ノ爲メ諸般ノ品物ヲ供給シ又  
ハ操作ヲ爲ス可キノ委任ヲ受ケタル會社中ノ者又  
ハ各人抗拒ス可ラサル力ノ強迫ニ因ラスシテ其任  
ヲ受ケタル職務ニ背キシ時ハ徒刑場内ニ於テ使役  
スル刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分一ヨリ多カラ  
ス五百フランクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク  
可シ但シ此規則ト此委任ヲ受ケシ者敵ト通謀シタ  
ル時更ニ重キ刑ニ處セラル可キ規則ト相觸ル、



ナカル可シ

第四百三十一條 前條ニ記シタル職務ノ委任ヲ受ケ  
 シ者ノ名代人其職務ニ背キシ時ハ前條ニ記シタル  
 刑ニ處セラレ可シ  
 若シ此職務ニ委任ヲ受ケシ者ト其名代人ト相共ニ  
 同上ノ重罪ヲ犯シタル時ハ共ニ同上ノ刑ニ處セラ  
 ル可シ

第四百三十二條 若シ政府ノ上等官吏下等官吏又ハ  
 政府ノ委任ヲ受ケシ者前二條ニ記シタル犯人ノ職  
 務ニ背クヲ助ケシ時ハ其官吏又ハ政府ノ委任ヲ受  
 ケシ者有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ但シ此規則ト敵  
 ト通謀シタル時更ニ重キ刑ニ處セラレ可キ規則ト  
 相觸ル、ヲナカル可シ

第四百三十三條 若シ全ク其職務ニ背キタルニ非ス  
 ト雖モ懈怠ニ因テ供給操作ヲ遅延セシ時又ハ供給  
 セシ物又ハ操作セシ物ノ性質種類分量ニ付キ詐偽  
 アル時ハ其犯人六月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラ  
 サル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分一  
 ヨリ多カラス百「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言  
 渡ヲ受ク可シ



此一節ノ各條ニ記シタル總テノ場合ニ於テ其罪ヲ  
訴フルハ政府ノ權ノミニアリトス

○獨逸

第三百二十九條 戰爭ノ時間海陸軍用ノ爲メ其官署  
ト約條シタル請負又ハ一般ノ凶害ヲ豫防シ又ハ之  
ヲ避シ爲メニ約條シタル食料ノ納方ノ執行ヲ故ヲ  
ニ遷延シタル者又ハ其約條ニ反シ故ヲニ他ノ方法  
ヲ以テ之ヲ遂ケサル者ハ六月ヨリ短カラサル禁獄  
ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪ス可シ

若シ巔忽懈怠ニヨリ其條約ヲ行ハス因テ損害ヲ生  
シタルキハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス  
下請負請負人ノ代理人其請負諸物ニ付催促ヲ受ケ  
タルト雖モ故意又懈怠或ハ巔忽ニ因テ其約束ヲ遂  
ケサルヲ爲シタルキハ同刑ニ處ス可シ

○埃及

第二百十條 海陸軍ノ需用ノ爲メ品物ヲ供給ス可キ  
委任ヲ受ケ又ハ其契約ヲ爲シタル者自己ノ過失ニ  
因リ其公務ヲ便セサル時ハ其供給ス可キ品物價高



ノ四分一ニ當ル罰金ヲ言渡サル可シ

第二百一十一條 若シ官吏前條ノ犯罪人ヲ助ケ其公務

ヲ便セシメサル時ハ其官吏三年ノ時間禁錮ノ刑ニ

處セラル可シ

第二百一十二條 海陸軍ノ需用ノ爲メ品物ヲ供給ス可

キ契約ヲ爲シタル者自己ノ過失ニ因リ其供給ヲ遅

延シタル時ハ其償還ス可キ損失償高ノ四分一ニ當

ル罰金ヲ言渡サル可シ

但シ品物ノ種類性質分量ヲ偽リタル者ハ後ニ記ス

ル規則ヲ以テ之ヲ其相當ノ刑ニ處ス可シ

○白耳義

第二百九十二條 凡海陸軍ノ用度供給等ニ任スル者

故ラニ其用ヲ關カシムルハ監役ニ處シ二百フラン

クヨリ三千フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

其用度供給ニ使役セララル者ニシテ故ラニ其用ヲ

辨セシメサル者ハ罪前段ニ同シ

第二百九十三條 凡官吏以上ノ犯罪ニ力ヲ加フル者

ハ監役七年ニ處シ三百フランクヨリ三千フランク

迄ノ罰金ヲ命ス可シ



第二百九十四條 凡前條ノ犯罪怠懈ニ出ル者ハ供給  
人及ヒ其使役人及ヒ官吏共ニ皆三月ヨリ二年迄ノ  
獄ニ處シ一百フランクヨリ一千フランク迄ノ罰金  
ヲ命ス可シ

第二百九十五條 凡前條ノ如キ調達等ノ事ニ關シ故  
ラニ期ヲ失フ者ハ六月ヨリ二年迄ノ獄ニ處シ二百  
フランクヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ  
若シ怠懈ニ因テ期ヲ失スル者ハ一月ヨリ一年迄ノ  
獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランク迄ノ罰金  
ヲ命ス可シ

第二百九十六條 凡第二百九十四條第二百九十五條  
及ヒ其第二段ニ記載セル犯罪ニ於テハ其主任宰相  
ノ告訴ヲ待テ追捕ス可シ

第二百九十七條 凡調納スル物品ノ製作量目品位等  
ニ奸計ヲ施ス者ハ六月ヨリ三年迄ノ獄ニ處シ一百  
フランクヨリ一万フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ  
是等ノ犯罪ハ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルヲア  
リ

第二百九十八條 凡官吏上條ノ犯罪ニ與スル者ハ二  
年ヨリ五年迄ノ獄ニ處シ二百フランクヨリ一万フ



ランク迄ノ罰金ヲ命ヌ可ク尙ホ第三十三條ノ奪權

ニ處スルコアリ

○佛蘭西  
第七十三 緘印及ヒ文書ヲ破毀スル等ノ罪又ハ人  
ノ密事ヲ漏洩スルノ罪

第二百四十九條 政府ノ命令又ハ何事ニ因ラス裁判

所ノ言渡ヲ以テ爲シタル封印ヲ破毀シタル者アル  
時其看守人懈怠ノ罪ノミナルニ於テハ六日ヨリ少  
カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ  
ル可シ

第二百五十條 若シ封印ヲ破毀シテ死刑無期ノ徒刑

流刑ニ處セラレ可キ罪ヲ訴ヘラレシ者又ハ既ニ其



刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ書類或ハ物件ノ封印ヲ破  
毀シタル者アル時其看守人懈怠ノ罪アルニ於テハ  
六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ  
刑ニ處セラル可シ

第二百五十一條

千八百六十三年五月十三日如左改ム

何人ニ限ラス前

條ニ記シタル書類或ハ物件ノ封印ヲ故ラニ破毀シ  
或ハ破毀セント試ミ爲シタル者又ハ其封印ヲ破毀  
シ或ハ破毀セント試ミ爲スニ加リタル者ハ二年  
ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ  
處ス可シ

看守人自カラ其封印ヲ破毀シ或ハ破毀スルニ加  
リタル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル  
時間ノ禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
前ノ二箇中何レノ場合ニ於テモ其犯人ハ五十「フラ  
ンク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰  
金ノ言渡ヲ受ク可シ  
又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス  
十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權  
利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且五年ヨリ少カラス十年ヨリ  
多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可



シ

第二百五十二條 前條ニ記セシ以外ノ封印破毀ノ犯人ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ又其看守人其犯人タル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十三條 封印ヲ破毀シテ行フタル竊盜ハ總テ物ヲ破毀シテ行フタル竊盜ト同一ニ處セラル可シ

第二百五十四條 書類ヲ藏スル官署又ハ裁判所ノ書記局又ハ公ケノ書類ヲ藏スル場所ニ貯ヘ或ハ公ケノ看守人ニ渡シタル犯罪ノ證書犯罪訴訟ノ證書及ヒ其他ノ證書類簿冊又ハ物件ヲ竊奪又ハ毀滅スル者アル時書記官書類ヲ管守スル者公證人又ハ其他ノ看守人懈怠ノ罪アルニ於テハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百五十五條 前條ニ記シタル所ノ竊奪毀滅ノ罪ヲ犯シタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セ



ラル可シ

若シ看守人自カラ其罪ヲ犯シタル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百五十六條 封印ノ破毀又ハ書類ノ竊奪毀滅ノ

罪ヲ犯スニ付キ人ニ對シテ暴行ヲ加フル時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

但シ此規則ト其暴行及ヒ其暴行ニ附加シテ犯シタル重罪ノ種類ニ因リ更ニ重キ刑ニ其犯人ヲ處ス可キ規則ト相觸ル、コナカル可シ

第三百七十八條 内科外科ノ醫士及ヒ下等醫士又ハ

賣藥者産婆及ヒ其他自己ノ職業又ハ其身分ニ因リ人ヨリ密事ヲ托テ受ケタル者法律ニ循ヒ其密事ヲ告訴ス可キ場合ノ外其密事ヲ漏告セシ時ハ一月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百三十九條 官署ノ簿冊及ヒ證書類又ハ義務契

約算還ノ証タル商業或ハ銀行ノ紙券手形爲替手形証票ヲ故意ヲ以テ焚毀シ又ハ如何ナル方法ヲ論セス之ヲ滅盡セシメタル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ



若シ官署ノ証書類又ハ商業或ハ銀行ノ証票ヲ滅盡  
セシメタル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セ  
ラル可シ

若シ其他ノ証書類ヲ滅盡セシメタル時ハ二年ヨリ  
少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ  
ラレ且百「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ  
多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

○獨逸

第三百三十三條 官ノ倉庫ニ收藏シタル文書簿冊証書

及ヒ其他物件ヲ故ラニ破毀シ又ハ隱匿シ又ハ公ケ  
ニ官吏及ヒ常人ニ委託シタル文書簿及ヒ物件ヲ故  
ラニ破毀シ又隱匿シタル者ハ禁獄ニ處ス可シ  
已レノ利益ヲ得ントスルノ意ニテ其事ヲ爲シタル  
者ハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス其餘公權ヲ剝  
奪スルヲ得可シ

第三百三十四條 官廳及ヒ官吏ヨリ公然ト張り出シタ  
ル貼紙ノ告示命令布達報告ヲ惡意ヲ以テ破毀損傷  
シ又塗抹變換ヲ爲シタル者ハ百「タ」レヨリ多カ  
ラサル罰金又六月ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ



第三百三十六條 物ヲ封シ印ヲ付ケ又取押產財ヲ爲サン

トスルノ意ニテ該廳及ヒ官吏ヨリ蓋印シタル緘印

ヲ官許ナクシテ故ヲニ破毀シ又之ヲ開封シタル者

又之ヲ損傷シ或ハ其緘印ヲ表ス可キ公然タル物ヲ

開キタル者ハ六月ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

第二百九十九條 自己ニ宛サル封狀及ヒ封書ヲ故ヲ

ニ又ハ免許ナク開封シタル者ハ百「タ」レ「ル」ヨリ多

カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス

可シ

訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可シ

第三百條 代書人代言人公証人及ヒ刑事ニ付テノ防

禦人内外科醫師產婆販藥者及ヒ其人ノ補佐等自己

ノ職務職業工業等ニヨリ人ヨリ委任ヲ受ケタル密

事ヲ免許ナク告發シタル者ハ五百「タ」レ「ル」ヨリ多

カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス

可シ

訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可シ

〇白耳義

第二百八十三條 凡官省寮司等ノ緘印ヲ誤毀スル監



守ハ八日ヨリ六月迄ノ獄ニ處ス可シ

第二百八十四條 凡官省寮司等ノ緘印ヲ故ラニ破毀

スル者ハ六月ヨリ二年迄ノ獄ニ處ス可シ

若シ其監主或ハ緘印シ若クハ之ヲ命スル官吏故ラ

ニ破毀スル者ハ一年ヨリ三年迄ノ獄ニ處ス可シ

其破毀セントシテ果サル常人ハ三月ヨリ一年迄

ノ獄ニ處ス可ク監守官吏等ハ六月ヨリ二年迄ノ獄

ニ處ス可シ

第二百八十五條 凡死刑終身懲役終身ノ被告人及ヒ

犯罪若クハ判決人ノ文書類記 錄 若クハ貨物 衣服 荷ニ

貼用セル緘印ノ破ルヲ覺ラサル監守ハ三月ヨリ

一年迄ノ獄ニ處ス可シ

第二百八十六條 凡前條ニ掲載セル文書質物ノ緘印

ヲ故ラニ毀損スル者ハ一年ヨリ三年迄ノ獄ニ處ス

可シ若シ其監守又ハ緘印ヲ命スル官吏ニシテ故ラ

ニ毀損スル者ハ二年ヨリ五年迄ノ獄ニ處ス可シ

其果サル第一ノ事ニ渉ル者ハ六月ヨリ二年迄ノ

獄ニ處シ第二ノ事ニ渉ル者ハ一年ヨリ三年迄ノ獄

ニ處ス可シ

第二百八十七條 凡人ニ強暴ヲ加ヘ緘印ヲ破毀スル



者ハ二年ヨリ五年迄ノ獄ニ處ス可シ  
若シ其果サ、ル者ハ六月ヨリ三年迄ノ獄ニ處ス可  
シ

第二百八十八條 凡二百八十四條二百八十六條及ヒ  
二百八十七條ノ犯罪ハ尙ホ五十フランクヨリ二千

フランク迄ノ罰金ヲ命スルコトアリ  
第四百六十條 凡郵便局ニ附スル書翰ヲ棄テ或ハ之

ヲ披キ書中ノ事ヲ窺フ者ハ八日ヨリ一月迄ノ獄ニ  
處シ二十六フランクヨリ二百フランク迄ノ罰金ヲ

命ス可ク或ハ此ニテ科ス可シ但郵便及ヒ電信局掛  
リノ官員ニシテ犯ス者ハ各其本律ニ依テ論シ罪ヲ

科ス可シ  
第四百五十八條 凡内外科醫師軍醫藥肆産婆及ヒ其

他ノ者其職業若クハ其位地ニ居ルヲ以テ人ノ陰事  
ヲ知り得テ之ヲ他人ニ告ル者ハ八日ヨリ六月迄ノ

獄ニ處シ一百フランクヨリ五百フランク迄ノ罰金  
ヲ命ス可シ但シ裁判所ニ證據ヲ爲シ或ハ法律ニ依

リ之ヲ告ル者ハ坐セス  
第四百五十九條 凡典舖ノ主人及ヒ其管店人等警保

官及ヒ裁判所ヲ除クノ外ニ典物者ノ姓名ヲ告ルモ



前條ト同罪トス

○埃及

第百五十三條 何事ニ限ラス官署ノ命令又ハ裁判所  
 ノ言渡ニ因リ家屋書類動産等ヲ保全スルタメ爲シ  
 タル封印ヲ破毀スル者アル時ハ其監守人懈怠ノ罪  
 ニ因リ五百「ピアストル」ヨリ少カラス五千「ピアスト  
 ル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ  
 第百五十四條 又重罪犯人或ハ重罪被告人ニ管スル  
 書類又ハ動産ニ爲シタル封印ヲ破毀スル者アル時

ハ其懈怠ナル監守人右重罪ノ種類ニ因リ三月ヨリ  
 少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ  
 ラル可シ

第百五十五條 前條ニ記シタル種類ノ書類又ハ動産  
 ニ爲シタル封印ヲ破毀シタル者ハ六月ヨリ少カラ  
 ス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可  
 シ若シ又監守人自カラ其罪ヲ犯ス時ハ一年ヨリ少  
 カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ  
 ル可シ

第百五十六條 前ニ記シタルヨリ更ニ他ノ趣意ヲ以



一處印ヲ破毀セシ者ハ一週ヨリ少カラス六月ヨリ  
 多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ若シ又監  
 守人自カラ其罪ヲ犯ス時ハ六月ヨリ少カラス一年  
 ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
 第二百五十七條 封印ヲ破毀シテ盜罪ヲ犯セシ者ハ物  
 ナ破壊シテ盜ヲ行フタルノ罪アリト爲シ其相當ノ  
 刑ニ處セラル可シ  
 第二百五十八條 公ケノ預リ場ニ藏メ置キ又ハ監守人  
 以預リタル官府ニ屬スル證書書類簿冊目錄或ハ裁  
 判手續書ヲ奪ヒ又ハ之ヲ破毀スル者アル時ハ懈怠  
 ノ罪アル監守人其月給ニ當レル罰金ヲ言渡サレ且  
 一週ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ  
 刑ニ處セラル可シ

第二百五十九條 前條ニ記セシ盜奪又ハ破毀ノ罪ヲ犯  
 シタル者ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル  
 時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
 若シ監守人自カラ其罪ヲ犯シタル時ハ其月給ニ當  
 レル罰金ヲ言渡サレ且一年ヨリ少カラス三年ヨリ  
 多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
 第六十條 若シ封印ヲ破毀シ又ハ書類等ヲ盜奪或



ハ破毀スルハ罪ヲ犯セシ時其監守人ニ暴行ヲ加ヘタルニ於テハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第百六十一條 官吏又ハ政府ヨリ委任ヲ受ケタル者郵便ニ托セシ書狀又ハ其他ノ送達者ニ托セシ書狀ヲ破毀シ或ハ開封スルノ罪ヲ自カラ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメタル時ハ百「ピアストル」ヨリ少カラス五百「ピアストル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サレ且一月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

又郵便役所ノ使用ヲ受クル者官吏或ハ平民ノ右書

狀ノ破毀又ハ開封ノ罪ヲ犯スヲ知テ之ヲ制セサル時ハ前三記スル所ト同一ノ刑ニ處セラル

第三百二十八條 何人ニ限ラス官署ノ簿冊證書及ヒ其他ノ書類又ハ爲替手形商業証券又ハ其他之ヲ失フニ因リ他人ノ爲メ損失ヲ生セシム可キ証書類ヲ故ラニ燒滅シ又ハ破毀シタル者ハ其方法ノ如何ヲ問ハズ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「ピアストル」ヨリ少カラス千五百「ピアストル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ



第三百七十四條 内科外科ノ醫師製藥者産婆又ハ其

他何人ニ限ラス其身分又ハ職業ニ因リ人ノ秘密ヲ

托セラレシ者法律上ニ其秘密ヲ告訴ス可キヲ特定

セシ場合ノ外猥リニ其秘密ヲ漏告シタル時ハ二十

四時ヨリ少カラス一週ヨリ多カラサル時間禁錮ノ

刑ニ處セラレ且二十「ピアストル」ヨリ少カラス百「ピ

アストル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

○英吉利

凡郵便吏役ノ故ヲニ人ノ封書ヲ披開シ或ハ停滯シ若

ク其人ヲシテ披開停滯セシムル者ハ並ニ輕罪ニ坐

シ徒罪或ハ入獄ニ處ス若クハ判事ノ適意ニ依テ徒

罪及ヒ贖罪ヲ併用ス

若シ證書ヲ盜取隱匿破折スル者ハ重罪ニ坐シ五年

ヨリ七年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ三年ニ止ル入獄ニ

處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ如シ財物證書等ニ

係ル封書ハ終身ニ至ル徒罪ニ處斷ス

若シ摺揚スル文書或ハ新聞紙等ハ全ク緘封セス若

クハ兩隅ヲ顯露スル者ヲ盜取隱匿破折停滯等スル

者ハ並ニ輕罪ニ坐シ贖罪或ハ入獄或ハ判事ノ適意



ニ依テ贖罪及ヒ入獄ヲ併用ス  
 凡故ラニ財物若クハ證書等ニ係ル他人ノ封書ヲ盜ミ  
 或ハ郵便吏役ヲ停留シテ封書ヲ盜ントスル者ハ重  
 罪ニ坐シ罪前條ニ同シ  
 若シ故ラニ他人ノ封書ヲ隱匿シテ吏役ニ付與セサ  
 ル者ハ輕罪ニ坐シ贖罪及ヒ入獄ニ處斷ス  
 凡家産器物等ヲ賣却若クハ典當シテ其沽券遺書證書  
 等ヲ消抹破壊シテ他人或ハ其子孫ヲ詐欺セントス  
 ル者ハ輕罪ニ坐シ贖罪或ハ二年ニ過サル入獄ニ處  
 シ若クハ苦役ヲ加ヘ或ハ贖罪入獄ヲ併用ス

凡官ニ係ル文簿戶籍招票命令書等ヲ盜取詐欺取若ク  
 ハ消滅破壊スル者ハ並ニ重罪ニ坐シ五年ノ徒罪ニ  
 處シ或ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ隘  
 牢ヲ加フ  
 若シ偽造シ或ハ眞ヲ以テ偽ト爲シ或ハ情ヲ知テ使  
 行スル者ハ七年ニ至ル徒罪ニ處シ若クハ入獄ニ處  
 ス其法上ニ同シ  
 凡他人ノ談話スルヲ戶外ニ立テ窺聽シ因テ之ヲ兇惡  
 重大ニ捏造シテ他人ニ說ク者ハ贖罪ニ處シ且後日  
 ノ善行ヲ保結セシム



第六百〇九條 墾地利 五月廿七日 布告

第三百十五條 布令布達國璽區署印爾他凡官府以名號ヲ以テ公布セル文書ヲ剖裂剝除挫折穢瀆爾他毀損スル者モ亦之ヲ輕罪トス凡該輕罪ノ犯爲タル者ニ輕易若クハ放恣ニ係ル者ハ其刑二十四時間以上一週以下ノ禁獄トス然レモ之ヲ糺彈スルニ其目的或ハ官廳ヲ蔑如セントスルカ或ハ布達ヲ頒行又其施行ヲ妨ケント欲セシテ顯然ナルニ於テハ一月以上三月以下ノ重禁獄ニ處ス可シ又其犯狀及ヒ犯

罪者ノ性質ニ從ヒ重禁獄六月以下ヲ科スルコトアル可シ

第三百十六條 官廳ノ封印及ヒ其側傍ニ端文若クハ他ノ記號アリシキ擅ニ之ヲ開放セル者皆ニ放恣若クハ輕易ノ好事心ヨリ興ル者ハ一月以上三月以下ノ禁獄トス然レモ之ヲ以テ公法ヲ蔑如スルノ徵ト爲サントスルカ或ハ其私權ヲ張り又ハ仇怨ノ思ヲ伸張セントスルシ目的ニ出ルニ於テハ一月以上六月以下ノ重禁獄ニ處ス可シ



又官印ト爲スモノハ管ニ官省ノ印記ヲ云フノミナ  
ラス併テ區署公立學校教院檢證者ノ印モ亦齊シク  
此中ニ算入ス

第三百十九條 爾他危害ヲ避ケシム可キ爲メニ設立

セル諸告示標暗礁標車馬ヲ毀除又ハ故ラニ損傷ス

ル者ハ之ヲ違式罪トシ通常三日以上三月以下ノ禁

獄トス然レモ其起因セル暴惡及ヒ犯爲セル害傷ノ

大小ニ應シ尙ホ本期限内中重禁獄ニ處スルコトアル可

シ

第四百九十八條 內外科醫師產醫產婆等其職務ヲ以

テ委任ヲ受ケシ人ノ陰件ヲ妄リニ(官ノ訊問ニ對ス

ル)外他人ニ傳洩スルモハ之ヲ違式罪トシ其初犯

ニ於テハ三月間本業禁止再犯ニハ一年第三回ニ至

レハ永ク本業ヲ禁止ス可シ

第四百九十九條 藥舖ノ主若クハ代理某患者ニ對ス

ル藥方書ニ據テ其陰件ヲ知リシモ官ノ訊問ニ應ス

ルノ外妄リニ他人ニ傳洩スル時ハ違式罪トシ必ス

五「グルデシ」以上五十「グルデシ」以下ノ罰金若シ該違

式人其手代ナルモハ一日以上四十日以下ノ禁獄但

シ情狀ニ從ヒ猶ホ加嚴ヲ加フルコトアル可シ



○加利堡爾尼

第六百十六條 凡合衆國若クハ本州ノ法憲ニ依リ若クハ各審院ノ命令ニ依テ本州ノ各場ニ表掲セル各種ノ告示稟告報知若クハ國法州法ノ副寫抄書節錄ヲ故ラニ其表掲限内ニ刮壞删除拆裂破壞スル者ハ二十元以上百元以下ノ罰金若クハ一月以下ノ禁固ヲ科ス

第六百十七條 凡他人ノ所有セル各種ノ文券ヲ害意アツテ殘毀拆裂塗抹删除破壞スル者ハ此文券ハ若シ之ヲ偽作

ル可キ者ハ偽作罪ニ觸ルルナリ 一年以上五年以下ノ禁固ヲ科ス

第六百十八條 凡己レニ贈遺セラレサル各種ノ封書ヲ其筆者若クハ其受贈者ノ准許ナクシテ故ラニ之ヲ開緘閱覽シ若クハ閱覽スルコトヲ致ス者及ヒ其書ノ不適法ニ開緘セラレタルコトヲ知リナカシ其准許ナクシテ其文辭全文ト節録トヲ論セス 傳播スル者ハ並ニ小罪ト爲ス

一三三  
第六百十九條 凡他人ニ贈遺セラレタル電送ノ消息全文ト其幾分トヲ論セス 其其人ノ准許ナクシテ故ラニ發泄ス



ル者ハ一千元以下ノ罰金若クハ一年以下ノ禁固ヲ科シ或ハ右二刑ヲ併科ス

○印度

第二百四條 人其裁判所又ハ其他官吏ノ面前ニ證據

トナシテ出ス可キ文書ヲ藏匿シ或ハ破壊シ或ハ塗抹滅跡讀ム可ラザラシメ以テ其裁判所又ハ其他官

吏ノ面前ニ用ヒラル、ヲ妨クル者ハ三年ニ止テ各

種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シ

テ之ヲ罰ス可シ

第四百七十七條 不正或ハ詐欺心ヲ以テ或ハ共同又

ハ人ニ損害ヲ被ラスルノ意ヲ以テ遺囑書又ハ義子

ヲ養フノ權書又ハ有價ノ保證タル可キ憑書ヲ塗抹

破壊隱匿シ又ハ之ヲ塗抹破壊隱匿セント試シ或ハ

如此憑書ニ係リ損害罪ヲ犯ス者ハ終身流若クハ七

年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

○魯西亞

第三百三條 官署ニ貯存スル證書或ハ其他ノ文書又

ハ犯罪ノ糾追犯人ノ證徴或ハ權利ノ確證ニ用ヒタ



ル或ハ用ヒサル可ラサル所ノ物品ヲ竊取シ又ハ故意ヲ以テ滅盡或ハ損害スル者ハ其爲シタル竊取滅盡或ハ損害ノ輕重及ヒ事ノ情實ニ依リ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利遠地ノ謫所放流或ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪ヲ以テ此刑法第三十一條ノ第三等ニ依リ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入又ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪ヲ以テ此刑法第三十三條ノ第一等ニ依リ西比利ヲ除ク外遠縣ノ住所放流或ハ勞役舍内ノ禁錮ニ處セララル

然レモ官署ニ貯存シタル書類或ハ物品ヲ竊取シ又ハ故意ヲ以テ滅盡或ハ損害スルハ犯蹟ヲ隱蔽スルノ故意ニ出テ又ハ法律ニ於テ族權全部ノ剝奪ヲ定メラル所ノ犯罪ヲ遂ルヲ援助スルヲ故意ニ出テ竊取滅盡或ハ損害スルノ罪人ハ其犯罪ノ助謀人ノ如ク此刑法第二百三十一條ニ於テ定メタル規則ニ依テ罰ニ處セララル

第三百四條 政府或ハ裁判所又ハ其他官廳ノ處置ニ由テ捺付シタル封印及ヒ其他ノ記標ヲ擅ニ滅盡削取破毀或ハ損傷スル者ハ四箇月ヨリ少カラス八箇



月日多カラサル時間懲治舎内ニ禁錮ニ處セラレ  
 若シ斯ノ如キ犯罪ヲ爲セシ者其犯罪ノ外政府ノ處  
 置ニ由テ封印シタル或ハ特別ノ記標ヲ以テ表識シ  
 タル物品ヲ竊取シタルキハ破壊ノ竊盜ニ就キ此刑  
 法第千六百四十七條ニ確定シタル最重ノ罰ニ處セ  
 ラル

第三百五條 封印又ハ特別ノ記標ヲ以テ表識シタル  
 書類或ハ物品ノ監視ヲ委任サレタル人ニシテ此前  
 文第三百四條ニ掲載シタル犯罪ヲ爲シタルキハ其  
 條ニ確定スル所ノ罰一等ヲ増加ス可シ

第千百四條 驛遞局ヨリ遣送センカ爲ノニ付托シタ  
 ル書狀或ハ驛遞局ニテ受領シタル書狀ニシテ他ノ  
 者ノ名宛アルモノヲ開封シタル驛遞官吏或ハ驛遞  
 小吏ハ縱令只見ルヲ欲スルノミニ出ルト雖モ之カ  
 爲メニ退職ニ處セラレ  
 若シ又其官吏ハ他ノ者ニ書狀ノ文意ヲ通知センカ  
 爲メニ開封シタルキハ四箇月ヨリ少カラス八箇月  
 ヨリ多カラサル時間ノ懲治舎内ニ禁錮ニ處セラレ

(第三百  
 五十五條)

第千六百二十二條 他ノ者ニ證書ヲ故意ニ滅盡或ハ



損傷スル者ハ之カ爲メニ滅盡或ハ損傷サレタル證  
 書ノ輕重及ヒ事ノ情實ニ依リ二箇月ヨリ少カラス  
 四箇月ヨリ多カラザル時間ヲ禁獄或ハ七日ヨリ少  
 カラス三週間ヨリ多カラザル時間ヲ拘留或ハ百ル  
 非ブル以下ニ贖金ニ處セラレ  
 然レモ若シ自己或ハ他ノ者ニ背法ノ利益ヲ得セシ  
 ヲシカ爲メニ他ノ者ノ證書ヲ滅盡或ハ損傷スル其  
 罪人ハ此下文第千六百五十七條ニ確定シタル罰中  
 ノ一二處セララル

第七十四 放火失火ノ罪

○佛蘭西

第四百三十四條

千八百六十三年五月十三日如左改ム

自己ノ所有タル

ト他人ノ所有タルトヲ問ハス人ノ居住シ又ハ居住  
 ス可キ建造物船舶小舟倉庫木材ノ聚積場又ハ其他  
 人ノ居住シ又ハ居住ス可キ諸般ノ場所ニ故意ヲ以  
 テ火ヲ放チシ者ハ死刑ニ處セララル可シ  
 人ノ乘リタル車或ハ火輪車又ハ現ニ人ノ乘リタル  
 モノニ非スト雖モ人ノ乘リタル列車ノ一部タル車  
 ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ同上ノ刑ニ處セララル



可シ  
 人ノ居住シ又ハ居住ス可キモノニ非サル建造物船  
 舶小舟倉庫木材ノ聚積場森林斫伐ス可キ大木未タ  
 刈收セサル穀類ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ此等  
 ノ物己ノ所有タラサル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラル  
 可シ  
 前文ニ記シタル自己ノ所有物ニ火ヲ放チ又ハ放チ  
 シメ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ有期ノ徒  
 刑ニ處セラル可シ又其所有者ノ命ニ因リ火ヲ放チ  
 シ者ハ同一ノ刑ニ處セラル可シ

堆積セシ藁又ハ刈收セシ穀類又ハ堆積セシ木材又  
 ハ商品及ヒ其他ノ品物ヲ載セタルト否トヲ論セス  
 人ノ乘リタル列車ノ一部ニ非サル車ニ故意ヲ以テ  
 火ヲ放チシ者ハ此等ノ物己ノ所有タラサル時ハ有  
 期ノ徒刑ニ處セラル可シ  
 前文ニ記シタル自己ノ所有物ニ火ヲ放チ又ハ放チ  
 シメ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ徒刑場内  
 ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ又所有者ノ命ニ  
 因リ火ヲ放チシ者ハ同一ノ刑ニ處セラル可シ  
 己レニ屬スルト人ニ屬スルトヲ問ハス火ノ傳ハル



可キ場所ニアル物件ニ故意ヲ以テ火ヲ放テ前六項ニ記セシ物ニ火ヲ傳ヘシ者ハ直チニ其物ニ火ヲ放テシ時ト同一ノ刑ニ處セラル可シ  
何レノ場合ニ於テモ火ヲ放テタルニ因リ其場ニア  
ル者一人又ハ數人ノ焚死セシ時ハ其犯人死刑ニ處  
セラル可シ

第四百三十五條 地雷火ヲ破裂セシメ建造物船舶小  
舟木材ノ聚積場ヲ滅盡セシメタル者ハ前條ニ記シ  
タル區別ニ循ヒ刑ニ處セラル可シ

第四百三十六條 家屋又ハ其他ノ所有物ニ火ヲ放テ

シト脅迫シタル者ハ第三百五條第三百六條第三百  
七條ニ記シタル區別ニ循ヒ謀殺ヲ爲サント脅迫セ  
シ者ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第四百五十八條 他人ノ動産或ハ不動産ニ接近セシ  
竈隕竈煙火鑄造所家屋製造所ノ舊敗シ或ハ其修理  
掃除ヲ怠リ又ハ田野ニ於テ家屋建造物森林草叢園  
庭植付場植籬或ハ穀類藁類枯草牛羊ニ喂ス可キ草  
類ヲ堆積シタル物或ハ其他焚燒ス可キ品物ヲ貯ヘ  
タル所ヨリ百メートル以内ノ距離ニ於テ火ヲ燃シ  
又ハ諸般ノ燃火點火ヲ忽略ニシ又ハ疎略ニ煙火ヲ



弄シタルニ因リ他人ノ動産或ハ不動産ヲ燒キタル者ハ五十「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

○獨逸

第三百六條 左ノ件々ヘ故ラニ放火シタル者ハ放火ノ罪トナシ徒刑ニ處ス可シ

第一項 宗徒集會ノ爲メニ設置シタル建物

第二項 人ノ住居スル家屋船舶及農舍

第三項 一時人ノ止宿ス可キ場所ニ人ノ住居シタ

ル時ニ放火シタル者

第三百七條 放火シタル者(第三百六條)左ノ件々ニ於

テハ十年ヨリ短カラサル徒刑或ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

第一項 火事ノ時間其場所ニ在ル人ヲ死ニ致シタ

ル時

第二項 謀殺強盜又ハ一揆ヲ煽動スルニ容易ナラ

シムル爲ノ其重罪ヲ犯シタル時

第三項 放火シタル者消防ヲ妨ケ或ハ消防ヲ不便ナラシムルノ意ニテ消防器械ヲ遠サケ又ハ之ヲ



用フルヲ能ハサラシメタル時  
 第三百八條 故ヲニ家屋船舶農舍鑛山倉庫公園ニ積  
 集シタル物品耕作物材木薪木蓄所未タ伐採セサル  
 或ハ既ニ伐採シタル穀物森林泥炭場ニ放火シタル  
 時其物件他人ニ屬スルト又放火者ニ屬スルヲ問ハ  
 ス放火ノ罪トナシ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス  
 可シ但シ其放火者ニ屬スル物件ニ於テハ其物質及  
 ヒ其景況ニ因テ第三百六條ノ一項ヨリ第三項ニ至  
 ル項ニ記シタル家屋及ヒ場所又ハ上ニ記シタル他  
 人ニ屬スル物件ニ延燒セサルヲ得サル時ニ限ル可

シ

若シ酌量輕減アルモ六月ノ禁獄ヨリ減少ス可ラス

第三百九條 蠱忽懈怠ニヨリ三百六條及ヒ三百八條

ニ記シタル物件ニ出火シタル者ハ一年ヨリ長カラ  
 サル禁獄又ハ三百「ターレ」ヨリ多カラサル罰金ニ  
 處シ若シ其出火ニヨリ人ヲ死ニ致シタルモハ一月  
 ヨリ短カラス三年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ  
 第三百十條 火ノ未タ發覺セサル已前又ハ火ノ起ル  
 可キ焦燃ス可キ物件ヨリ他ノ物件ヲ損害セサル已  
 前犯人自ラ之ヲ消滅シタルモハ其罪ヲ論ス可ラス



第三百十一條 火藥或ハ其他破裂ス可キ物件ヲ用ヒ

テ物ノ全部又其一部ヲ破壊シタル者ハ放火ト同シ

ク論ス可シ

○白耳義

第五百十條 凡左ノ犯ハ皆十五年ヨリ二十年迄ノ懲

役ニ處ス可シ

廈屋船艦舖店工作場及ヒ其他人ノ住所ニシテ其内

ニ一人若クハ衆人アルノ時放火スル者人民ノ集會

ニ用フル廈屋ヲ集會ノ時ニ當リ放火スル者總テ人

ノ住所ニアラサルモ臨時ノ景況ニ依リ其廈屋内ニ

一人若クハ衆人アルヲ知リ放火スル者

第五百十一條 凡第五百十條ニ載スル廈屋船艦等ヲ

同條ニ擧ル景況ノ外ニ放火スル者及ヒ山林若クハ

田野ニ生植スル耕作物ヲ燒ク者ハ十年ヨリ十五年

迄ノ懲役ニ處ス可シ

假令此等ノ物品固ヨリ放火人ノ有タルモ其不良心

ニ因テ燒キシハ一年ヨリ五年迄ノ獄ニ處シ二百フ

ランクヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第五百十二條 凡收穫シタル稼物或ハ斫出シ積聚シ



タル材木ヲ燒ク者ハ監役ニ處ス可シ  
 若シ伐木ノ未ダ收集セサル者ヲ燒ク者ハ一年ヨリ  
 五年迄ノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランク  
 迄ノ罰金ヲ命ス可シ  
 若シ收納物若クハ材木ノ主人ニシテ不良心ニ因リ  
 之ニ放火スル者ハ此條ノ第一ノ場合ニ在テハ六月  
 ヨリ三年迄ノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フラ  
 シク迄ノ罰金ヲ命ス可シ  
 第二ノ場合ニ在テハ三月ヨリ二年迄ノ獄ニ處シ二  
 十六フランクヨリ二百フランク迄ノ罰金ヲ命ス可

シ

第五百十三條 凡第五百十條第五百十一條及ヒ第五  
 百十二條ノ犯夜間ニアル者ハ十五年ヨリ二十年迄  
 ノ懲役ヲ終身懲役トシ十年ヨリ十五年迄ノ懲役ヲ  
 十五年ヨリ二十年迄ノ懲役トス監役ヲ十年ヨリ十  
 五年迄ノ懲役トシ第五百十一條第二段ニ掲クル獄  
 及ヒ罰金ハ監役トシ第五百十二條第三段ニ掲クル  
 獄及ヒ罰金ハ其第一段ノ場合ニ於テハ一年ヨリ四  
 年迄ノ獄ニ處シ一百フランクヨリ一千フランク迄  
 ノ罰金トシ第二段ノ場合ニ於テハ六月ヨリ三年迄



ノ獄ニ處シ五十フランクヨリ五百フランク迄ノ罰金トス

第五百十四條 凡放火獄ニ該ル犯ヲ爲サント試ムル者ハ二月ヨリ二年迄ノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ二百フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第五百十五條 凡前諸條ノ犯ハ本刑ノ外尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處シ二年ヨリ五年迄ノ警察ヲ受ケシムルヲアリ

第五百十六條 凡第五百十條第五百十一條第五百十二條ニ載スル物件ニ放火スルニ先ツ其近隣ニ在ル

物品ニ火ヲ放テ因テ延焼ニ致ス者ハ其物件ヲ直チニ放火スル者ト同罪トス

第五百十七條 凡二物中一物ヲ放火スレハ必ス他ノ一物ヲ延焼ス可キ位置ニ在ルモノニシテ其一物ヲ放火シ延テ他ノ一物ニ及フ時ハ二物中其重キ者ニ依テ論シ罪ヲ科ス可シ

第五百十八條 凡物件ノ内ニ人アルヲ知テ放火シ因テ其人ヲ傷スル者ハ謀傷律ト放火律トヲ照準シ其重キニ依テ論シ罪ヲ科ス可シ若シ放火律謀傷律ヨリ重キニ該ル者ハ其監役若クハ有期懲役ニ該ルハ



尙ホ其最モ重キ者ニ二年ヲ加フ可シ若シ其人ヲ死ニ致ス者ハ死刑ニ處ス可シ

第五百十九條 凡竈鐵匠鋪烟突等總テ火ヲ用フル厦屋等ノ修覆及ヒ掃除ヲ怠リ因テ出火シ人ノ動靜財産ヲ延燒スル者或ハ家屋山林叢藪植付場所籬稿草等總テ燃ユ可キ物質ノ蓄所ヨリ一百「メートル」尺三寸「メートル」以内ノ地ニ放火シ人ノ動靜財産ヲ延燒スル者若クハ提燈若クハ棄置キタル燈火若クハ妄リニ備ヲ漫ニシテ花火ヲ飛シ人ノ動靜財産ヲ燒ク者ハ八日ヨリ三月迄ノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨ

リ五百「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス可ク或ハ此一刑ニ處ス可シ

第五百二十條 凡破裂物ヲ用ヒ家屋船艦車氣車倉庫製作場等ヲ放火シ或ハ放火セントスル者ハ皆前數條ニ照シ其區別ニ從テ論シ各其罪ヲ科ス可シ

○埃及

第五百十七條 何人ニ限ラス都府村邑ノ内外ニ在ル建物又ハ船舶物置場倉庫及ヒ其他總テ人ノ現ニ居住スル場所又ハ住居スル爲メ設ゲタル場所ニ火ヲ



放チシ者ハ此等ノ諸物ノ己レノ所有物タルト否ト  
ヲ問ハス死刑ニ處セラル可シ  
又人ノ乘リタル車又ハ人ノ乘リタル列車ノ一部分  
ヲ爲ス車ニ火ヲ放チシ者ハ亦同上ノ刑ニ處セラル  
可シ

第九十八條 何人ニ限ラス人ノ現ニ住居セス又ハ  
人ノ住居ノ爲メ設ケタル建物船舶物置場倉庫ニ火  
ヲ放チ又ハ大木小樹ノ森林或ハ未ダ刈取セサル穀  
艸ニ火ヲ放チタル者ハ此等ノ諸物ヲ己レニ所有セ  
サルニ於テハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第九十九條 己レニ所有スル右ノ諸物ニ火ヲ放チ  
又ハ其所有者ノ指令ニ從ヒ右ノ諸物ニ火ヲ放チ他  
人ニ害ヲ加ヘタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ  
第二百條 己ノ所有ニ屬セサル建築ニ用フル木材或  
ハ既ニ刈取シタル穀艸ニ火ヲ放チシ者又ハ商品ヲ  
積ミタルト否トヲ問ハス人ノ乘リタル列車ノ一部  
分ヲ爲サル車ニ火ヲ放チシ者ハ有期ノ徒刑ニ處  
セラル可シ  
若シ己ノ所有スル右ノ諸物ニ火ヲ放チ又ハ其所有  
者ノ指令ニ從ヒ右ノ諸物ニ火ヲ放チ他人ニ害ヲ加



ヘシ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百一條 若シ其目的ト爲ス物件ニ直テニ火ヲ放  
クス之ト相接近スル物件ニ火ヲ放テ其目的タル物  
件ニ及ホシタル時ハ其犯人前數條ニ記シタル差別  
ニ循ヒ其相當ノ刑ニ處セラル可シ

第二百二條 如何ナル場合ニ於テモ火ノ發セシ時其  
場所ニ居合セシ一人又ハ數人ノ焚死シタル時ハ其  
犯人死刑ニ處セラル可シ

第二百三條 地雷火ヲ發セシメ前數條ニ記シタル物  
件ヲ毀滅セシ者ハ前數條ノ差別ニ從ヒ火ヲ放テ之

ヲ毀滅シタルト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第三百二十五條 竈隴竈煙突又ハ其他火ヲ用フル處  
ノ掃除或ハ修復ヲ怠リ又ハ藁枯草及ヒ其他ノ燃易  
キ物ヲ堆積シタル處ニ接近セシ家屋建物森林葡萄  
園田野園庭内ニ於テ火ヲ燃シ又ハ府内ニ於テ煙火  
ヲ弄シ又ハ其他懈怠疎忽ノ所爲ニ因リ火ヲ失セシ  
者ハ三日ヨリ少カラス一週ヨリ多カラサル時間禁  
錮ノ刑ニ處セラレ且百ピアストルヨリ少カラス二  
千五百ピアストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル  
可シ



○英吉利

凡官府ノ軍艦及ヒ武器庫火藥庫造船所御膳所等ノ諸  
器品積聚スル所へ放火シ及未焰燒 或ハ毀壞スル  
者ハ重罪ニ坐シ絞ニ處決ス

若シ海陸軍ノ器具及ヒ兵糧丸藥等へ放火シ或ハ人  
ヲ唆教助勢シテ放火セシムル者モ罪亦同シ  
余按スルニ此刑稍々重クシテ方今必ス行フヲ能ハ  
サル可シ如シ犯ス者アレハ奏聞シテ死一等ヲ減ス  
ルヲアラン

凡人ノ居止スル房屋及ヒ寺院廡庫店舎船隻石炭礦等  
ニ放火シ已ニ燬燒スル者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ終  
身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ若  
クハ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ如シ年十六以下ノ者犯セ  
ハ更ニ打背罪ヲ加フ  
若シ未タ焰燒ニ至ラサル者ハ五年ヨリ十四年ニ至  
ル徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ處ス其法上ニ同シ  
若シ園場ニ於テ積聚スル所ノ草穀柴薪等ニ放火ス  
ル者モ罪亦同シ  
若シ田野ニ茂生スル所ノ蔬穀樹草等ニ放火スル者



モ罪亦同シ如シ未タ焰燒ニ至ラサル者ハ七年ニ止ル徒罪ニ處斷ス

凡火藥破裂物等ヲ用テ人ノ居住スル房屋ニ於テ發裂セシメ因テ人ヲ損害シ其生命ヲ危險ナラシムル者ハ重罪ニ坐シ終身ノ徒罪ニ處シ如シ止タ房屋ヲ損害セント欲シ火藥ヲ置キ未タ發セサル者ハ十四年ニ及フ徒罪ニ處斷ス

○加利堡爾尼

第四百四十七條 凡放火トハ之ヲ破壞セント企欲シ

故ラニ善意アツテ人ノ家屋ヲ焚燬スル者ヲ言フナリ

編者云ク本州ノ布告律ニハ放火ノ語ヲ汎用シ人身ノ累危ニ關セサル許多ノ焚燬ヲモ一切ニ之ヲ放火ト謂フ故ニ積穀植穀橋梁等ヲ焚燬スル者ヲ第二等放火ト云ヘリ案スルニ放火ノ語ハ火ヲ人ノ家屋ニ放ツノ犯罪ニ限リ船中ニ焚燬スル其他ノ焚燬罪ハ都テ之ヲ放火中ニ掲セス別ニ惡害罪中ニ列スルヲ允當トナス

第四百四十八條 此章ニ所謂ル家屋トハ凡ソ人ノ居



住ス可ク若クハ人ノ居住ニ接属セル家屋舍宇宮室  
建築若クハ船舶ヲ總稱スルナリ

第四百四十九條 此章ニ所謂ル住屋トハ夜間ニモ歇  
宿スル常住者アルノ家屋ヲ言フナリ

第四百五十條 此章ニ所謂ル夜間トハ日没ヨリ日出  
ニ至ル迄ノ時間ヲ言フナリ

第四百五十一條 此章ニ所謂ル焚燬トハ必シモ其家  
屋ヲ破壊スル者ニ限ラス苟モ火ヲ其一分ニ放ツル  
ハ直ニ之ヲ焚燬ト言フナリ

第四百五十二條 凡放火罪ト稱ス可キ者ハ必シモ所

有者アルノ家屋ニ限ラス或ハ適法ニ之ヲ假有シ限

ヲ以テ借テ之ニ住スルノ類  
モ亦之ヲ假有スル者ナリ 或ハ現ニ之ニ住シ若ク

ハ其一分ニ住スル者アルノ家屋ヲ焚燬スルハ即  
チ之ヲ放火罪トナス

第四百五十三條 放火罪ハ二等ニ分ツ

第四百五十四條 害意アツテ夜間人ノ家屋ヲ焚燬ス  
ルニ其時若シ人ノ其中ニ在ルハ之ヲ第一等放火  
罪ト謂ヒ其他ノ放火ハ皆之ヲ第二等放火罪トナス

第四百五十五條 放火罪ハ左ノ禁固ヲ科ス

第一 第一等放火罪ハ二年以上トナス



第二 第二等放火罪ハ一年以上十年以下トナス  
編者云ク此章ハ千八百五十六年ノ布告刑法ニ據  
ル然レモ本篇ニハ家中ノ人若シ焚死スルキハ其  
放火者ハ謀殺ヲ以テ論スト云フノ一段ヲ除去ス  
何ントナレハ此罪率ハ既ニ第百八十九條ノ第一  
等謀殺中ニ列スレハナリ

第三百八十五條 凡火災ノ時ニ官吏若クハ救火夫ヨ  
リ發スル適法ノ指令ニ從ハス若クハ救火夫救火隊  
ノ消防事務ヲ抗抵攪擾シ若クハ消防ヲ妨碍ス可キ  
亂行ヲ爲ス者及ヒ人ノ其消防ヲ助ルヲ禁止妨碍註

誤スル者ハ並ニ小罪トナス

第六百條 凡害意アツテ故ラニ價五十元ヲ越ヘタル

各種ノ橋梁若クハ各種ノ家屋船艇 此家屋船艇ハ放

可ラサル者若クハ各種ノ積穀積草植穀植草植樹若ク

ハ各種ノ籬柵 是レ皆己ノ有ニナ焚燬スル者ハ一年

以上十年以下ノ禁固ヲ科ス

第六百一條 凡害意アツテ火藥若クハ其他ノ爆發劑

ヲ發シテ各種ノ家屋 其全部ト一分ヲ破壊摧倒妨害

シ因テ以テ人ノ生命安全ヲ累危スルニ至ル者ハ大

罪トナス



第六百八條 凡害意アツテ故ラニ各種ノ束筏槎桴樹幹

薄板厚板若クハ其他木材ヲ以テ編制セル者皆同シ若クハ其桴筏ノ幾分ヲ

焚燬妨害破壊シ或ハ這樣ノ桴筏若クハ其幾分ヲ截

離放流シ或ハ各種ノ船艇ヲ戕伐缺壞妨害沈沒放流

スル者ハ桴筏船艇皆他人ノ所有セル者ヲ言フナリ五百元以下ノ罰金若

クハ六月以下ノ禁固ヲ科ス

◎印度

第三百二十六條 第三百三十五條ニ記載スル場合ノ

外割刺射器又ハ其他死ヲナスニ足ル所ノ器或ハ火

又ハ熱物或ハ毒物或ハ呼吸血運ヲ害スル物或ハ爆

散物又ハ獸類ヲ以テ故ラニ人ヲ重損傷スル者ハ十

年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ

第四百三十五條 一百リユ一ピ一以上ノ財物ヲ損害

スルノ意ヲ以テ或ハ損害スルニ至ル可キヲ知テ火

又ハ爆散物ヲ用ヒ損害罪ヲ犯ス者ハ七年ニ止ル各

種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ

第四百三十六條 禮拜住居又ハ貯財ニ用フル建物ヲ

損害スルノ意ヲ以テ或ハ損害スルニ至ル可キヲ知

テ火又ハ爆散物ヲ用テ損害罪ヲ犯ス者ハ終身流若



クハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス  
 第四百三十七條 二十噸以上ノ船舶又ハ其他甲板ア  
 ル船舶ヲ破壊シ又ハ危険ナラシムルヲ圖リ或ハ破  
 壞シ又ハ危険ナラシムルニ至ル可キヲ知テ之ニ對  
 シ損害罪ヲ犯ス者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ  
 且贖金ヲ科ス可シ  
 第四百三十八條 火若クハ爆散物ヲ以テ前條ノ損害  
 罪ヲ犯シ又ハ犯サント試ミル者ハ終身流若クハ十  
 年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ

〇墾地利 千八百五十二年五月廿七日布告

第百六十六條 凡他人ノ所有物ヲ燒亡セシメント欲  
 スルノ意思ヲ挾ミ其所業ヲ爲ス者ハ假令火勢焰上  
 セス或ハ妨害ヲ爲サスト雖モ皆之ヲ放火ノ重罪ト  
 ス

註ニ日本條ニ放火罪ト爲スハ凡其放火ノ蔓延ス  
 可キ趣向及ヒ其放火セシ物体例ヘハ各箇家屋收  
 納所穀物枯草荷物ノ畜積又ハ牧場ノ藁等ノ如キ  
 區別ヲ要セサルモノナリ一千八百五十八年九月  
 二十六日司法卿布達 第一万九千二號ニ詳カナリ



第六十七條 放火ノ處刑ハ左ノ區別ニ從テ之ヲ判

スルコトス

(甲) 放火焰上シ因テ放火人豫メ希圖セシ如ク果シ

テ人死ヲ致セルカ或ハ其放火タルヤ暴行ヲ爲サ

シタメ特ニ數人群集シテ以テ犯爲スルニ於テハ

之ヲ死刑ニ行フ可シ

(乙) 假令同物異物ニ對スルヲ問ハス該犯罪者一回

ヨリ多ク放火シ果シテ其焰上セルハ唯一回ナル

場合又ハ

(丙) 放火焰上シ該災ニ因テ甚シキ害傷ヲ生スルカ

或ハ

(丁) 該犯罪者一回ヨリ多ク放火ヲ爲スト雖毎回其

害ヲ成サ、リシキ其罪皆終身重徒刑ニ處ス可シ

(戊) 放火焰上ニ及フト雖モ其事情右ニ掲載セルモ

人、如クナラサルニ於テハ十年以上二十年以下

ノ重徒刑ニ處セラル可シ

(己) 放火焰上ニ及ハスト雖モ然レモ其放火セルノ

時夜中ナルカ或ハ其焰上スルニ於テハ容易ク蔓

延ス可キ場所又ハ其情狀ニ於テ人命危險ニ係ル

ヲ判然ナルニ於テハ該犯罪者五年以上十年以下



ノ重徒刑ニ處セラル可シ

(庚) 放火ノ時日中ニ係ルカ及ヒ其所爲別ニ危険ナルヲナク加ルニ其放火焰上ニ及ハスシテ消滅シ或ハ焰上スルト雖モ害傷ナク撲滅セラル、ニ於テハ一年以上五年以下ノ重徒刑ニ處セラル可シ

第六十八條 凡放火ヲ爲スト雖モ該犯人自ラ悔悟シ好ク其機ニ及テ忽チ本害ヲ除クニ於テハ全ク其罪ヲ問フ可ラス

第六十九條 惡意ヲ挾テ自家所有品ヲ燒失シ因テ亦他人ノ物品ヲ危険ニ觸レシムル者ハ齊シク之ヲ放火ノ罪トシ第六十七條ニ掲載セル規則ニ從テ之ヲ刑ス可シ

第七十條 自家ノ物品ヲ燒却シ因テ他人ノ所有物ヲ火災ニ罹ラシム可キ危殆ナキハ未タ之ヲ放火ノ罪ト爲ス可ラス然レモ這的ノ所業ニ憑テ某甲ノ權利ヲ害セント欲スルカ又ハ某ニ疑惑ヲ歸セシメントスルニ出ルヲ以テ之ヲ詐僞ノ罪トス

第四百三十四條 屢不測ノ危険ヲ醸成セル火災ノ害ニ在テハ一定ノ豫防法ヲ惰ルキハ違式罪トシ之ヲ罰ス可シ



○魯西亞

第一千六百六條 居宅ニ故意ヲ以テ放火スル者ハ族權  
全部ノ剝奪及ヒ八年ヨリ少カラズ十年ヨリ多カラ  
サル時間城塞懲役ニ處セラル

第一千六百七條 前文第一千六百六條ニ確定シタル罰ハ

左ノ時ニ於テ三等重加セララル可シ  
寺院ニ放火シタル時

皇帝或ハ皇族ニ属スル宮殿ニ放火シタル時全都會  
ニ火災ヲ及ホスノ故意ヲ以テ都會ノ各所或ハ少ク  
モ其過半又ハ火藥庫或ハ患者ノアリシ病院ニ放火

シタル時(第八百三十一條)故意ヲ以テ放火シタル罪人ハ會

テ既ニ斯ノ如キ犯罪アルヲ證徴セラレタル時又其  
罰ハ左ノ時ニ於テ二等重加セララル可シ官署又ハ凡  
テ行政廳或ハ裁判所ノ一部ニ居ル館舎又ハ政府ニ  
属スル文書ヲ貯存スル書室又ハ學校或ハ其他ノ公  
館又ハ文庫博物館或ハ獄舎ニ放火シタル時(第三百  
八條及

ヒ第三  
百九條)

劇場或ハ其他衆人ノ來會スル館舎ニ放火シタル時  
但シ衆人ノ既ニ來會シ或ハ來會セサル可ラサルニ  
方テ放火シタル時ナリ



全村邑ニ火災ヲ及ホスノ故意ヲ以テ村邑ノ數所或ハ少クモ其過半ニ放火シタル時  
人ノ乘リシ船舶又ハ他ノ船舶ニ近ツキシ船舶ニ放火シタル時

糧倉或ハ武庫ニ放火シタル時

此未段ノ場合ニ於テハ只主謀人勸謀人或ハ首罪人ノミ二等ヲ重加シタル至嚴ノ罰ニ處セラル可シ又其罰ハ左ノ時ニ於テ一等重加セラル可シ  
夜間ニ於テ火災ヲ起シタル時

第一千六百八條 鑛坑ニ放火スルニ就キ其罪人ハ放火

ヲ蒙リタル鑛坑ニ人ノアリシヤ否ヤト及ヒ事ノ情實トニ依リ族權全部ノ剝奪及ヒ二十年ヨリ少カラズ十五年ヨリ多カラサル時間ノ鑛山懲役或ハ十年ヨリ少カラズ十二年ヨリ多カラサル時間ノ城寨懲役或ハ族權全部ノ剝奪ノ後西比利ノ遠地或ハ近地ノ謫所放流ニ處セラル  
若シ又其罪人ハ斯ノ如キ放火ヨリシテ鑛坑ニ在リシ役夫及ヒ其他ノ者ノ受ク可キ危殆アルヲ容易ニ先見シ得可ク及ヒ先見セサル可ラサルヲ證セラレタルキハ族權全部ノ剝奪及ヒ無期ノ鑛山懲役ニ處



セラルルニ於テ其家宅ニ故意ヲ以テ放火シ及ヒ船中ニ人アラ  
 ス及ヒ其船ノ近傍ニ他船アラサリシ時ニ於テ其  
 船ニ故意ヲ以テ放火スル者ハ族權全部ノ剝奪及ヒ  
 西比利遠地ノ謫所放流ニ處セラルル  
 然レモ若シ人ノ存シタル家宅ト近隣ニ在ル不住ノ  
 家宅ニ放火シ又ハ前文第千六百七條ニ記載スル糧  
 倉及ヒ武庫ヲ除クノ外或ル種類ノ商店商庫或ハ糧  
 倉ニ放火シタルハ族權全部ノ剝奪及ヒ四年ヨリ

少カラス六年ヨリ多カラサル時間ノ製造場懲役ニ  
 處セラルル  
 夜間ニ於テ平常不住ノ家宅ニ放火シタル者モ亦同  
 上ノ罰ニ處セラル可シ(第千二百  
 二十二條)  
 若シ又放火人ハ己ノ放火ヲ蒙リタル家宅縱令不住  
 ノ家宅ナルニモセヨニ其時人アリシコトヲ知リタル  
 ハ此  
 前文第千六百六條ニ確定シタル罰ニ處セラ  
 ル

第千六百十條 放火ノ犯圖アルニ就キ其罪人ハ左ノ  
 主義ヲ以テ罰ニ處セラル可シ



第一 若シ放火ヲ以テ起シタル火災ハ縱令既ニ始  
 リシト雖モ其始メニ於テ自ラ悔悟シタル放火人  
 ノ盡力ニ由リ或ハ其放火人ノ呼助ニ應シタル人  
 ニ由テ消滅シタルキニ其罪人ハ己カ悔悟ノ真正  
 ナルヲ信認セララルノ多少及ヒ事ノ情實ニ依リ  
 此刑法第五十條ニ原キ特權幾分ノ剝奪ヲ以テ八  
 箇月ヨリ少カラス一年四箇月ヨリ多カラサル時  
 間懲治舎内ノ禁錮ニ處セラレ又ハ四箇月ヨリ少  
 カラス八箇月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セ  
 ラル

第二 若シ又放火ヲ以テ起シタル火災ハ其始メニ  
 於テ消滅シタルト雖モ放火人ノ告知ニ由ルニア  
 ラス及ヒ其放火人ノ呼助ニ應シタル人ニ由ルニ  
 アラサルキハ縱令此時ニ火災ノ消滅ヲ妨碍セス  
 ト雖モ其罪人ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全  
 部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第二等ニ依テ  
 西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラ  
 ル

然レモ若シ斯ノ如キ場合ニ於テ放火人ハ己ノ犯  
 罪ヲ悔悟シテ且特別ノ盡力及ヒ身体ノ危殆ヲ以



テ火災ヲ滅シ及ヒ其有害ノ結果ヲ避ルヲ助ケタルキニ其罰ハ裁判所ノ見込ニ依リ一等或ハ二等モ輕減スルヲ得可シ

第三 若シ放火ヲ爲シ或ハ既ニ放火ノ爲メニ可燃物等ノ準備ヲ爲シテ以テ隱匿シタルキ或ハ其場所ニ止リ已カ犯罪ノ悔悟ヲ證示セサルキハ縱令火災ハ其始メニ於テ他ノ者ノ盡力或ハ偶然ノ情實ニ由テ消滅或ハ豫防セラレタリト雖モ其罪人ハ全ク遂ケタル放火ニ於ルカ如ク前文第千六百條ヨリ第千六百九條ニ確定シタル罰ニ處セララル

第千六百十一條 火災ヲ起スニ緊要ナル實物ヲ求得シ或ハ適用シテ以テ火災ヲ起スヲ準備スルニ就キ其罪人若シ斯ノ如キ故意アルヲ證徴セラレタルキハ其準備ノ爲メニ使用シタル方略及ヒ所行ノ種類並ニ總テ事ノ情實ニ依リ身体及ヒ旅位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第四等或ハ第五等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セララル

第千六百十二條 火災保險會社ニ於テ保安シタル所有物ニシテ即チ已レニ屬スル所有物ニ放火スルニ



就キ若シ又其火災ノ爲メニ貨幣ノ利益ヲ得ルノ故意ヲ以テノミ斯ノ如キ事ヲ爲シタルハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ放流ニ處セララル

若シ又斯ノ如キ所爲ヲ以テ人アル所ノ家宅ニ放火シ或ハ若シ火災ハ他ノ者ノ家宅ニ傳播シタルハ又ハ若シ放火ヲ蒙リタル家宅ハ他ノ家宅ノ近隣ニ在リシキハ居住或ハ不住ノ家宅ニ故意ヲ以テ放火スルニ就キ此前文第千六百六條ヨリ第千六百九條ニ至ルノ各條ニ定メタル規則ニ依テ罰ニ處セララル  
(第千六百九十條)

第千六百十三條 他ノ者ノ森林ニ故意ヲ以テ放火ス

ル者ハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利遠地ノ謫所放流ニ處セララル

若シ惡謀ノ徒黨ハ斯ノ如キ放火ヲ爲シタルノ場合又ハ乾燥或ハ強風ノ爲メニ火災ノ甚タ強ク傳播スルヲ期セサル可ラサルノ時又ハ放火ヲ蒙リタル森林ニ人民家宅其他ノ住所或ハ全邑アリシ時ハ其森林ノ放火ニ就テ確定シタル罰ニ一等重加セララル或ハ事ノ情實ニ依リ二等及ヒ三等モ重加セララル  
(第七千

條七)



第一千六百十四條 他ノ者ノ根麥把麥刈麥畑麥積麥乾  
 麥或ハ不住家宅ニ在ル麥又ハ菓園及ヒ刈場又ハ刈  
 草或ハ薪木ヲ故意ニ燒燼シ並ニ泥炭地ニ放火スル  
 ニ就キ其罪人ハ斯ノ如キ放火ヲ晝間或ハ夜間ニ於  
 テ爲シタル時ニ其放火ヨリ居住ノ家宅或ハ近隣ノ  
 人民ニ對シテ危殆アリシヤ否ヤト及ヒ事ノ情實ニ  
 依リ族權全部ノ剝奪及ヒ西北利謫所ノ放流又ハ身  
 体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法  
 第三十一條ノ第四等或ハ第五等ニ依テ西北利住所  
 ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル

又ハ只四箇月ヨリ少カラス一年四箇月ヨリ多カラ  
 サル時間ノ禁獄ノミニ處セラル

第一千六百十五條 怨惡或ハ復讐ニ由テ此款ノ前文數

條ニ掲載シタルモノヲ除クノ外他ノ所有物ヲ故意  
 ナリテ燒燼スル者ハ四箇月ヨリ少カラス八箇月ヨ  
 リ多カラサル時間ノ禁獄或ハ七日ヨリ少カラス三  
 箇月ヨリ多カラサル時間ノ拘留又ハ百ル<sup>ル</sup>以  
 下ノ贖金ニ處セラル

第一千六百十六條 火藥瓦斯或ハ其他燃物ノ噴裂ヲ以  
 テ他ノ者ノ財産ヲ故意ヲ以テ滅盡或ハ損害スル者



ハ放火ニ就テ此前款ニ確定シタル罰ノ重キモノニ  
處セララル

第七十七條 故意ヲ以テ森林ニ放火スル罪人ハ此  
刑法第六百十三條ニ定メタル規則ニ依テ罰ニ處  
セララル

第七十五 水ヲ以テ物ヲ破壊シ或ハ滅盡スル罪

〇佛蘭西

第四百五十七條 土地ノ所有者或ハ借主又ハ水車製  
造所池沼ノ所有者當然ノ權利アル者ノ限定シタル  
高サ以上ニ疏水ノ路ヲ造リテ道路或ハ他人ノ所有  
スル地ニ其水ヲ流溢セシメシ時ハ損失償高ノ四分  
一ヨリ少カラス五十フランクヨリ多カラサル罰金  
ノ言渡ヲ受ク可シ

若シ此水ノ流溢セシニ因リ毀壞シタル時ハ其犯人  
罰金ノ外六日ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時



間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

○獨逸

第三百十二條 故ラニ大水ヲ起シ堤防及ヒ水溜因テ

一人或ハ數人ノ生命ニ罹ル一般ノ危難トナル可キ

害ヲ生シタルモノ然三年ヨリ短カクナル徒刑ニ處

シ若シ其大水ニ因テ人ヲ死ニ致シタルハ十年ヨ

リ短カラサル時間徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

第三百十三條 故ラニ大水ヲ起シ因テ所有地ノ爲メ

一般危難トナル可キ害ヲ生シタルハ徒刑ニ處ス

可シ然レモ大水ヲ起シタル犯人只自己ノ地ヲ保護スル

ノ意ニテ他ノ意ナク之ヲ犯シタルハ三月ヨリ短

カラサル時間禁獄ニ處ス可シ

第三百十四條 齷忽懈怠ニヨリ大水ヲ起シ因テ人ノ

生命或ハ所有地ニ罹ル一般危難トナル可キ害ヲ生

シタルモノハ一年ヨリ長カラサル禁獄ニ處シ若シ

之ニ因テ人ヲ死ニ致シタルハ三月ヨリ短カラサ

ル禁獄ニ處ス可シ



○白耳義

第五百四十七條 凡不良心ヲ以テ礦場ノ全部又ハ一

部ニ水ヲ入ル、者ハ十年ヨリ十五年迄ノ懲役ニ處

ス可シ

若シ此犯人其臨時ニ礦穴中ニ一人以上ノ人アルヲ知

テ水ヲ入ル、者ハ十五年ヨリ二十年迄ノ懲役ニ處

ス可シ

第五百四十八條 凡前條ノ犯ニ於テハ第五百十八條

ヲ以テ論シ罪ヲ科スルコトアル可シ

第五百四十九條 凡不良心ヲ以テ他人ノ田地ニ水ヲ

入ル、者ハ二十六「フランク」ヨリ三百「フランク」迄ノ

罰金ヲ命ス可シ

第五百五十條 凡地主佃戶及ヒ其他總テ風車鑄造所

若クハ池沼等ヲ有スル者定規外ニ水ヲ高ラシテ他

人ノ田地若クハ道路ニ水ヲ入ル、者ハ五十「フラン

ク」ヨリ五百「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス可シ

若シ其物件ヲ毀損スルニ致ス者ハ罰金ノ外尙ホ八

日ヨリ一月迄ノ獄ニ處ス可シ

○埃及



第三百二十三條 水車製造所池沼ノ所有者或ハ借主

其水ノ疏水路ヲ規則ニ定メタルヨリ更ニ他ノ形狀

ニ造リ直シ他人ニ屬スル堤防又ハ田野ニ其水ヲ流

溢セシメタル時ハ損失償還高ノ四分一ニ當シル罰

金ヲ言渡サレ可シ

第三百二十四條 故ニ堤防ヲ毀テ又ハ其他ノ方法

ヲ以テ供水ヲ起サシメタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セ

ル可シ

○印度

○印度

第四百三十二條 水ヲ潰シ又ハ公同ノ水ヲ放ツテ妨

ゲ因テ損害ヲ生シテ損害罪ヲ犯ス者ハ五年ニ止ル

各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用

シテ之ヲ罰ス可シ

○加利堡爾尼

第六百七條 凡害意アツテ故ラニ各種ノ橋梁水閘漕

渠水漕水甬外堤大川ノ出水ニ豫防防堤瀦池ヲ戕伐

缺壞妨害破壞シ若クハ沛澤及ヒ出水上潮卑濕ノ地

ヲ乾潤築回スル爲メ若クハ水力ヲ激發スル爲メ若